

# 鎌倉のことば

鎌倉近代史資料第三集

鎌倉近代史資料第三集

鎌倉のことば

鎌倉市教育委員会  
鎌倉市中央図書館

## はじめに

このたび、鎌倉近代史資料第三集「鎌倉のことば」を再版することとなりました。

この資料は、当館の近代史資料収集嘱託員の木村彦三郎氏により調査・研究されたものの一つで、平成元年に刊行し、大変好評を得たものです。

同氏は、鎌倉に生まれ育った生粋の鎌倉人であり、半世紀以上にわたって鎌倉のことばを自分の足で調査し、記録をしてまいりました。その中から、約千七百語にもおよぶ鎌倉のことばを収めたものであり、永年にわたるご努力に深く感謝いたすとともに、敬意を表するものであります。

最近では郷土および郷土史に関心をお持ちの方々も多く、特に鎌倉ではこの方面の研究が盛んであり、大変喜ばしいことでもあります。

今回の再版にあたり、この資料が広く市民の皆様方に愛読され、ご研究に少しでもお役に立てば幸いです。

なお、この「近代史資料」の刊行は、当図書館の重要な事業の一つとして、今後も継続していく所存であります。

平成三年四月二十五日

## は し が き

ここに収めた言葉は、二十世紀前半ころまで鎌倉で一般にもちいられていた。

私は二十世紀はじめに坂ノ下の農漁村に生まれ、鎌倉をはなれず、いろいろなと鎌倉の事象にかかわってきた。

言語学や民俗学など系統だった教養はないが、私が生まれて以来使っていた言葉が、この頃では僅かのお年寄りにか通じない廃語になりつつあるので、私の記憶とむかしからの遊び仲間やお年寄りたちに聞いたり、私の記憶を確認してもらったりして「鎌倉のことば」として記録することにした。

鎌倉といふせまい地域だけに限られた言葉というものがある筈はなく、他地方に共通したものが必ずあると思うが、いま私たちのまえから消えたり、使われることが減った言葉が、他の地方でも似た運命にあるとしたら、これが些かは後の世の資料になるものと信じている。

こうして集めてみると農、漁、山を生活にした人たち、職人言葉が多いのが目立ち、鎌倉の往時をしのぶすがとも思える。

話し言葉は文章語でないから、音韻・文法は勿論、用途も分類しにくいので、そうしたことは一切省いて、言葉と意味だけを記録するにとどめた。

参照した資料のおもなもの

- 総合民俗語彙（民俗学研究所編）
- 全国方言辞典（東條操編）
- 神奈川県方言辞典（県教育委員会）
- 三浦耳袋（太刀川総司郎遺稿集）
- 江ノ島民俗誌、伊勢吉漁師聞書（清野久雄編）
- ある農漁民の歴史と生活（辻井善弥著）
- 三浦半島の農民生活（渡辺正美著）
- 鎌倉近世史料（沢寿郎編、鎌倉市教育委員会）
- 鎌倉としよりの話（木村彦三郎編、鎌倉市教育委員会）
- 藤沢の民話（藤沢教育文化研究所編）
- 鎌倉の民俗（大藤ゆき著、鎌倉春秋社）
- 神奈川県方言地図（県立博物館）
- 大辞典（平凡社）
- 日本語の世界（中央公論社）
- 江戸―東京語一一八話（杉本つとむ著、早稲田大学出版部）

- 大街道日記 (関谷村 落合氏日記 明治八年～九年、明治二十三年～二十四年)  
○小長井日記 (十二所村 小長井氏日記 明治三十八年～大正五年)

等

昭和六十三年五月

木村彦三郎

「ア」

アーイヤー コウユウ ↓アーデモネイ コーデモネイ  
異論をとなえる。なにごとによらず人の意見に反対する。

アービナ ↓アーベ↓ヤーベ  
行け。歩け。

アーブク  
泡。

アーブクタッタ ニータッタ  
煮えて泡がたった状態。

アイコ  
勝負や商いなどをして、互いに勝負、損得なしで同等のこと。

アエイ  
青い。未熟。若い人のやることに蔑視的に使う。

アエビ  
渡し板。船から船、あるいは船から岸など、双方へ架けて、人や物をわたすにつかう板。巾三〇センチ厚さ三センチくらいの松板で、長短がある。地上で重いものを

動かすときにはシラの役割もある。

アオ キタ

五月ごろから吹くつよい風。海があおく見えるところからいう。

アオサ

岩に生えるノリの一種

アオゾ

麻を青く染めて帆につけるもの。海難除けのおまもり

アカ

舟にたまった海水。木造船の桹のすきまなどから、海水が入ったもの。

アカトリ

舟のアカをすくいとる道具。舟形にして上に取っ手をつけた木造船の必需品。

アカボク

出産、月経による出血。神社の参詣、信仰上の集会、漁具などにふれることを忌む習慣があった。

アカル

自然の状態で戸がひらくこと。

アカンベエ ↓ベッカッコー

否定、右臉の下に右人指をあて、否をいう表現をする。

アカンボナレイ

北東の風で、一、二月ごろ吹く。

アカマンマ

犬たでの花。子供がままごとにつかう。

アクタレル

悪口雑言を言う。自分の非を咎められたとき、反ばつ的に暴言を吐く。

アクデー

酷なこと。常識外に、人を困らせたり、責めたり、いじめたりする行為。

アクデーモクデー

悪口。ばりぞうげん。罵って、相手の心を傷つける。

アグリ

揚緑り網。二艘の舟が一つ網を、双方に別れて海に入  
れ、たぐりながら終りに舟が一ヶ所に寄って網をあげる  
方法で二艘を、アンブネ（親舟）とよび、漁獲物を運ぶ  
テフネ（荷舟）が別に一隻ついている。

アゲアメ

晴れたと思うと、やがてまた降りだす雨。

アゲモノ

油で揚げた食物。天ぶらや精進揚げなどと、こまかい  
分類がないころの言葉。

アゲル

完了。おわる。寝具などを片付ける。

アサズクリ

朝食前の作業。農家などで、早起きして、草刈や肥料  
の支度をしてから、朝食にかかるのがあたりまえになっ  
ていた。

アサツテ

明後日。見当ちがいのことにも用いる。

アサツパラ

朝早く。

アシイレ

婚約が成立して、娘が嫁ぎ先に自由に出入する。

アシロ ↓アシバ

足代。足場。

建築などに用いる足場。

アズキゲイ

小豆を入れたカユ。正月十五日につくる。



アスビ

あそび。暇。仕事がないとき「今日は一日あすびだ」  
などと言う。紐など結ぶとき、ゆとりをもたせる。

アズリ

せかせかしている。一つとぎの間も惜しむ。時間に追  
いかけられているように、つぎからつぎと働くような人。

アゼ

何故。質問をするとき。

アタ

仇。しかえし。

アターコク ↓アタースル

しかえしの乱暴をする。

アタマツパリ

経費の平等割。わりかん。

アタラシヤ

別れて新しく一家を成したものを。別家、分家、隠居家  
などの類。

アタリバチ

すりばち。

アタリメー

当然。

アチイ

あつい。熱していること。

アッコントコ

あそこのところ。

アツパツパ

気転のきかない人。知恵の足りない人。

アテガウ

支える。倒れかかる物体を支える。衣食等の物を与え  
る。

アテゲーブチ

あたえられた範囲で賄う。給料など定めないうで雇主が  
一方的な計算で支給する。

アテズツポー ↓メクラメツポー

非計画的。おおよその見当。ものごとを計画的にせず、  
安定性のないやりかたをする。

アテッコスリ

皮肉。

アトゲツ

前の月。反対が来月。

アトトリ

家を嗣ぐ人。

アトビツサリ

うしろ退り。うしろ向に歩く。地曳網の曳子が海を向いて、うしろ退りに陸へ網を引きあげる様子や田植などの姿。

アナアケル

穴をあける。損をする。金銭をつかいこんでしまう。

アナボッコ

くぼんだところ。

アニイ

軽く否定する場合、はじめにつける。

アニオツ

なにを。質問の形だが、きつく相手に反ばつの意味もあり、語尾を強めてつめよる。

アノケー ↓コノケイ

あのくらい。目分量。

アバ

網の浮標。桐や漆の木でこしらえた刺網などにつける浮標。

アバケル

暴れる。

アバコシ

あばずれ。網につけたアバ（浮木）を魚がとびこえることから、常人の行いから逸脱したことをする者をよぶ。

アフリ アフリ

けだるい。何もする気がおきないでいる状態。

アブル

火にあて、暖める。手あぶりは火鉢のこと。

アブレル

仕事につけない。目的からはずれてしまったときにもつかう。

アベコベ

ものごとについて、反対になること。右に対して左、表に対して裏、高いに対して低いというような場合。

アマツカワ

あま皮。植物や果実の表皮と実のあいだにあるうすい膜状の皮。

アマツチヨ

女の子。

アマツチヨロイ

手ぬるい。女々しい。

アメ

大豆を煮つめた汁。味噌をつくる時に入れる。

アメー

手ぬるい。あまい。寛大。

アメヤオドリ

江戸時代末から明治、大正期にかけて盛んだった芸能で、芝居の筋を手踊りに工夫し唄と鳴物が入ったもので、狂言種目も二、三十あり、鎌倉、三浦方面では現在も演じられる。

アヤカル

影響をうける。おかげを被る。

アラ

欠点。魚肉をとったあとの骨や臓物など。米に混じった糲。

た糲。

アラク

雑草のおい茂った荒地。未開墾の土地。

アラク ゲワ

開墾用のクワ。耕作用のクワより巾や長さが大きく重

量がおもい。

アラシゴト

はげしい労働。ほねのおれる仕事。

アラタカ

効果。祈禱やまじないで、その効果として良い結果が

あらわな場合など。

アラッサガシ

人の欠点をあばく。そんな人を軽べつして云う。

アラテ

網の目の粗い部分。地曳網などで網の部分から、網にかかる中間につけたあらい目の網。長い距離を曳くに、水ぎれをよくして網にかかる負担をかるくする仕掛け。新に加勢する人数。

アラメ

カジメの一種。海原でカジメは滑らかでアラメは小さな皺があつてうす手。

アラメニメール

現前。過去の出来事などを思い出して語るとき、それが現実のように、目前に再現してくるといふ意。

アワイ

あいだ（中間）。物と物との隙間。

アワイシ

栗石。鎌倉石のことで、燐灰岩の一種。

アワセル

一致協力する。勝負のとき相手に呼吸を一致させるとか、釣りのとき魚が釣針にくいついた頃合を見はからうような場合。

アンキ

気楽。

アンダ

何だ。問いかける場合に多く使う。

アンダケ

あれ程。あれだけ。ある限り。ある数量を指示して云う場合にも用いる。

アンダッテ

何事か。咎めだてする場合に用いるので、語尾がつよくなることが多い。

アンデモネー

何事でもない。

アンドロボー ↓コンドロロボー

あの野郎。対手を悪しざまに云うようだが、互いに意味をつよく感じないで、日常語にしている。

アンネ

姉。目上の女。近親的な意。

アンノジ

あんのじょう。思ったとおり。予想していたとおり。

アンバリ

網針。網をつくったり、つくろったりするときの道具で、鉾竹ホコチケがもつともよいとされていた。

アンベー ↓アンベィ

塩梅（味などの場合）。具合（仕事の進行の場合）。

調子（病気などの場合）。あるだろう。

アンモンカ

あるものか。ない、と否定のときに用いる。

「イ」

イーカゲン

あてにならない。中途半端。

イイカラカン

あてにならない。いいかげん。

イガキ

井垣、猪垣の字をあてるが、方形に青竹で囲ったもの。

坂ノ下方面では、秋葉山、伊勢講などが代参に出るとき、講元の門口に三尺四方の青竹で井垣を設け、中に砂を敷いて御幣をたてる。

イカサマ

正当でない行為。

イカス

気転が利く。「イカレル」と対照の意味にもとれる。

イカレル

くたびれる。疲弊する。見劣りする。

イキバル

下腹に力をいれる。

イキム

腹に力をいれる。りきむ。

イキレル

湿度がたかく、むしあつい。

イケゴイ

種をまくまえに、畑に埋めておく肥料。

イケシャーシャー

馬耳東風。とぼける。凶々しいに通じる。人の言葉を

気にしない。

イケスカネイ

気にくわない。好みにあわない。

イケゾンゼー

ぞんざい。粗雑。粗暴。あらあらしい態度。行儀が悪

い。

イケネー

よくない。いけない。行かれない。

イケル

埋める。

イゴク

動く。

イサシイ

久しい。

イサシブリ

久しぶり。

イサバ

魚揚場(イサバ)(五十集)。江戸時代に鎌倉周辺でとれた魚を

江戸に送るために、一定の場所に集めた。鎌倉では材木

座に設けた。

イザリバタ

織織器の一種。台の低い、古い手織器でチバタ地機の種類。

座って作業する。

イジイジ

ものほしげな様子。特に食物の場合などに。

イジガキタネー

食欲が旺盛な人。女色好み。

イジキタナシ

食いしんぼう。前の言葉が行為を示すが、ここでは、

人を示す。

イシケリ

片足で石をけりっこする遊び。

イジッパリ

意地を張る。まけずぎらい。

イジル ↓イジクル

指先で触れて弄ぶ。

イジンバナ

蛇の目草。鎌倉では明治中期頃から材木座方面でつか

われていた言葉で異人館の庭に咲いていた。

イセキ

長男。家督相続人。

イソガネ ↓アワビガネ

鮑を岩から剥がすに用いる道具。

イソメ

磯の岩や砂浜の波をかぶるところに棲息する「ゴカイ」

に似た虫で、釣り針につけて鯛などを釣るに用いられる。

砂イソメ、岩イソメの二種類。

イタツペラ

板っ平。うすい板片。

イタブル

揺する。人の欠点、秘密をあばいて金銭を強要するこ

となど。

イタミ

果実などの腐蝕。傷が悪化する。

イチッコ

口よせ。巫子。靈感で死者をよびよせて、その言葉を媒介するとか、神託を伝えるような行為をする。婦人が多い。

イチマキ

一族。

イチモンガシ

駄菓子。安ものの菓子。

イチヤモン

悶着をおこさせる。

イツシヨウ マツシヨウ

一生涯。

イツソクトビ

思いきって。とびきり。

イツパン

人並み。一人前。社会的に一人前として扱われる。

イツペイイツペイ

損徳なし。過不足なし。

イツペイクウ

だまされる。

イッペイドッコ

損も利益もない。

イドケエ

井戸の水をくみ替えることで、毎年盆前に行う年中行事。井戸の側に生じた草や苔を払い、溜っている水を底まで汲みとって掃除し、新しい湧水を使うようにする。

イドコネ ↓イドコロネ

居場所そのまま、寝具も用意しないで横臥してしま

う。

イナゴチ

砂まじりの土(畠の土としては上質)。

イナサジケ

東南(辰巳)からの強い暴風雨が吹きつけ、鎌倉方面では、特に恐れられている。

イナス

扱う。あしらう。

イナブラ

稲束を円錐形に積みあげたもの。

イヌバシリ ↓イヌツパシリ

高い石垣や崖の中間に、犬が走る程度の段差をつけた  
緩衝地帯。

イビ

指。

イビル

意地わるくいじめる。

イボゲール ↓エボゲール

ひきがえる。墓。背中に疣のような凸起があることか  
らいわれてきた。

イボジリマキ

女の頭髮の結び方で、長い髪を總髪して、うしろに無  
造作に束ねたもの。

イボツクイ

かまきり。

イマーリ

家の周囲。

イモグラ

薩摩芋や里芋の貯蔵法で、乾燥地帯を地下一・五メー  
トル程掘って粟殻を敷き、その上に芋類を五十センチの  
高さに積み、それを粟殻で厚く覆って、土砂をかけて埋

め、地上六十センチほどに盛りあげる。春になって掘り  
出して食用にする。

イモダンゴ

薩摩芋をうすく、あるいは千六本（細く）に切って、  
席にひろげて乾燥させ、それを臼で粉に挽いて貯蔵する。  
食うときは、粉を湯で練って蒸籠カマドでふかして、砂糖や  
黄粉キヌコをつけて食う。非常食だが、一般には日常の間食に  
もされた。

イヤ

錘。漁網の下部につけるオモリ。土製素焼のものや、  
鉛製のもの。

イラ

電気クラゲ。初秋になると紫色の長い毒をもった触手  
を曳いて、海中を漂い、人が肌ふれられると、激しい  
痛みを感じ数時間もつづく。

イリッコピリ ↓ウチッコピリ

家の中にこもり勝ちで外へ出たがらない子供。

イルトコクボミ

人が座ればそこが凹むというところから、何事も他人  
が来ると、消耗があるという意。



イルリ

囲炉裏。

イレッコ

桶や箱などの容器を大、中、小といった順の大きさの組み合わせにつくり、使用しないときは、一つ（最も大きいもの）の容器に収まるようにする。

イレンナ

いろいろな。

イロキチゲ

多情な人。

インキョカゴ

生魚籠。竹で巾着型に編んだ、大きな生簀イカスで、上部に孟宗竹の太いのを結んで浮標にしたもの。高さ二メートル、胴のもつとも太いところは直径二メートルぐらい。鯉の餌にする鱒（かたくち）を活けた。

インギン

いんげん豆。

インダラ

ふしだら。淫らがましい。

インドウ

いるぞ。

インニャー

いやあ。いいえ。

# 「ウ」

ウエーラ

汝ら。おまえたち。

ウカゲー

訪ねる。尋ねる。神仏に祈禱してその託宣をうける。

ウザウザ

うんと。沢山。

ウサツタ ↓ウサレ ↓ウサル ↓ウサリヤ ↓ガレ ↓

ウサリヤアガツタ

来た、来い、来る、行った、など招かざる客のような

不快な場合に用いた。子供たちに対して大人が用いたり

する。

ウジウジスル

臆する。ためらう。

ウシコロシ

雑木の一つで、柔軟性のつよいミズキ類。牛を殺せる

程強いといわれ、ハンマーや石屋の鎚の柄などに用いら

れる。

ウシノシタ ↓シタピラメ

ヒラメのこと。その形が牛の舌に似ているので、鎌倉

方面の漁夫や魚屋のよび方。

ウジャジャケル

水っぽくなる。ふやける。水分を多くふくんで、軟か

くふくれあがった有様。

ウスノロ

知能のはたらきが少し足りない人。

ウスラサビイ

少し寒い。

ウタゲリ

疑い。

ウダル

煮あがる。又は暑さの形容。

ウチッコビリ ↓イソッコビリ

家の中にもって、外出しながらない子供。

ウッチャラカス

手をかけない。ほうっておく。

ウッチャル

捨てる。

ウツテゲーシ

しかえし。すぐひきかえす。

ウツパガス ↓ウツトバス

売ってしまふ。

ウデヌキ

木綿で二重につくり、左右の腕にはめるもので、おちないように首から紐で吊るす。植木職人などが使う。

ウナア

ウヌは。汝は。おまえは。

ウナイゾメ

農耕の始め。鎌倉地方では正月四日に行われる。松枝と輪飾り、鍬をもって畠に行き、一鍬いれてそこに松をさし輪飾りをかざる。

ウナウ

耕すこと。

ウナリ

凧につける弦。藤をうすく剥いたものか、鯨のひげからつくった、細長く薄い紐状のもので、凧の背につけると、風をうけて唸り音を出す。

ウヌ

汝。おまえ。

ウヌラ

汝ら。おまえたち。

ウブギ

産着。お産の時、里方から子にもって行く着物。

ウブヤ

産をする部屋。産室は別に設けた小屋か、納戸を用いた。

ウマズケノオケ

盤台。結婚や出産のとき、里方（実家）から祝いの赤飯を炊いて、婚家や媒酌人に、大きな盤台（浅い円形の桶）一対に入れて馬の背にのせて届ける。鎌倉の近郊では、終戦前まで行われていた。

ウム

熟す。化膿する。

ウメル

埋める。熱湯に水を注いでぬるくする。穴のあいたところに詰めものをする。

ウラ

木や竹、枝、棒などの先端の部分。

ウラナリ

枝の先端についた実で、成熟度がわるく、味、栄養にとぼしい。反対がモトナリ。

ウルシ

腫れもの。アレルギー体質で、皮膚にできる腫物。

ウルシイ

うれしい。よろこばしい。

ウルシツカキ

唾をベッベツと吐く人。漆を採取する人が、乾燥をきらってしょっちゅう、手に唾をつけているので、ところどころさわらず、やたらに唾を吐く人をいう。

ウロ

洞穴。うつろ。木や岩に穿れた穴。

ウロチヨロ ↓チヨコマカ

落ちつきがない。ちよこちよこする。目の前をうるさく動く。

ウロッキ

高く伸び枝を張って、下草を覆っている木。洞穴のある木。

ウンザマンザ

たくさん。うんと。物の量が多いとき用いる。

ウンチ ↓ウンコ

糞。

ウント

沢山。

ウンナラカス ↓ウナラカス

一生けんめい。力いっぱい。

ウンニャ

イイエ。否定。

ウンネル

寝る。

ウンマク

巧く。上手。都合よく。

ウンマケル ↓オンマケル

容器を逆さにして、中のものをあける。

ウンマレル

生まれる。

〔エ〕

エイ

良い。問いかえす。

エイカラカン ↓イイカラカン

あてにならない。信用できない。でたらめ。ほどほど。

エイビアウ

主張がちがったときなど、互いに折り合う。妥協する。

歩みよる。

エイビネイ ↓ヤービネイ

行きなさい。

エイビヨル

歩みよる。妥協する。

エーベ ↓ヤーベ

行け。

エガラッペー ↓エガラッポイ

のどがひりひりと刺激される。

エゲー ↓エゴイ

のどを刺すような味覚。

エダブチ

枝伐り。畑や道路などの陽当りや通行をよくするため  
繁った枝を伐る作業。

エダル

柄のついた酒樽。

エテコー

猿。

エテモノ

猿。人を軽蔑して言う。

エノゴ

悪性の腫物。

エビイ ↓エブイ ↓ケブイ

煙りたい。

エビツル

野ぶどう。

エベス

えびす神。

エベスコー

えびす神をまつる講。一月二十日、十月二十日、商い

の神として祭る。

エビスゼン

神仏へ供える膳の供えかたで、木目を堅にするのが正  
常だが、木目を横にすると忌みきらい「エビスゼン」と  
いう。

エビツ ↓イビツ

歪んだ形。つぶれた形。

エブリ ↓エンブリ

田畑の耕作したあとの土を、平に均らすための道具。

あるいは穀類を庭に干すときに均らしてひろげる道具。

エボ

疣。<sup>イボ</sup>

エボタ

イボタの木の略称。

エボタムシ

イボタロウムシのことで、かいがら虫。雄の幼虫が分  
泌した臘を加熱加工したものは薬用や戸の滑りをよくす  
るのに用いられる。

エボル

灸あとのただれ。灸をすえたあと、二、三日でその皮  
膚が、赤くただれはじめると灸の効果があらわれるとし  
た。

エマシ

麦を煮てむらす。

エミ

裂け目。焼物や道具などにできるひび。

エム

熟れる。果実など熟して割れた状態。

エレー

多い。大層。大した。ひどい。形容詞としては「多い」。

副詞としては「大層」。

エレモノ

容れもの。容器。

エレンナモン ↓エレンナコト

いろいろなもの。いろいろなこと。

エンガー ↓エンガワ

座敷の外側につけた廊下。

エンコ

子供が座ること。故障で動かなくなる。廊下の細い板。

エンデイ ↓エンダイ

移動できる長い腰掛。縁台。

エンヤコラ

地形。地づき。三、四本の棒の上部をたばねて下部をひろげ、別の丸太に縄をつけ、縄を棒の上部に通して縄を引いたり、放したりすることにより丸太が地面をつきかためる。建物をたてるときの整地作業。このとき、曳き綱をもった数人の人夫が、「エンヤコラ」とかけ声をすることから、この呼び方が一般になった。地形唄ではない。

## 「オ」

オイラ

私たち。

オオケン

大体の見当。

オージメマツリ

今泉白山神社の祭り。長さ十メートル、太さ二十五センチほどによったしめ縄に、三十本ほどの細かい藁製の足をつけた「ムカデジメ」を、一月八日に奉納する行事。今泉の白山神社の行事で、白山神社と改める以前、毘沙門堂時代の行事だったものが、ひきつがれている。

オーシンツク

法師蟬。

オーッピラ

公然と、披露する。

オーネ

根本。

オーバンブルマイ

たくさんの人にふるまう。気前よくふるまう。

オービキ

建物のねだの下にいれる、梁のように太い、ねだおき。

オーボハレテ

公然と。晴々と。

オーマクレエ

大食漢。

オオヤマカランダチ

夏、西北に黒雲が立つこと。「大山カランダチと隣のボタモチは来そうで来ない」といわれ、こんな雲行のときは鎌倉方面には夕立がない。

オーヨウ

太ッ腹。

オカガリタキ

山岳信仰で、材木座、小町などの山上に薪を積みあげて、それに点火して呪術をおこなった。薪は町内全戸からの寄進により、行事当番は材木座は光明寺門前、小町は宝戒寺門前の家々がつとめ、十一月十七日の当夜は鎌倉中が不夜城のように明るくなったという。明治の終り頃に消防がうるさくて廃止になったという。

オカッポレ

片思い。

オカリヤ

御飯屋。御旅所。祭りの際、神輿を小屋から出して、神官が御霊うつしをした後、臨時に設けた小屋に納め、祭りがすむと御霊をぬいて、常設の小屋に収める。この臨時の小屋のこと。

オカシ

正月三ケ日、神社へ供える食物。雑煮に用いる里芋や大根を煮て、味をつけないうちに、供えるもので、一家の当主や年男がすることになっていた。

オキ

奥。鎌倉全域でつかわれていた。

オキゲ

南風みなかぜの陽気。

オキノカゼ

南風みなかぜの一種で、沖の方を吹いている風。

オキヤン

茶目ッ気の多い人。騒々しい娘。おてんば。

オクラ

物をしまいこんで出さない。



オクレ

買物をする場合のかけ言葉。店へ入るときの挨拶にもつかう。子供がものを欲しがっている。

オコシヤ ↓オシヤマ

早熟。ませている。子供の動作が、子供らしくない。生意気なこと。

オコジヨ ↓オコジ

間食。おやつ。おさんじ。

オコシヨウ

小皿。ちいさい取皿。

オコス

土地を開墾する。炭火などをおこす。

オサキツパシリ

何事もでしゃばる。話しあいがかまららないのに、先にくごき出す。

オサメール

とり押さえる。動かないようにおさえておく。

オサルサン

赤い三角の綿を包んだ小袋。額縁の下の両隅に取りつけ、額縁をのせる金具等の上に小袋がはさまるようにし

て額を保護した。

オジイヤ

雑炊。

オシメリシヨウガツ

雨天で休むこと。農家で、雨で野良仕事ができないとき、村の役人から「オシメリシヨウガツ」の触れがまわされ、公然たる休日になる。

オシヤカ

ずぶ濡れ。もち金をつかい果して、無一文の状態。

オジャン

駄目。失敗。

オシヨーキ

お仕置。懲らしめの行為。

オシヨロサマ

精霊。盆に送り迎える祖霊。

オセイ

おかず。副食物。

オセー

遅い。

オゼイ

ずるい。

オセール

教える。押える。

オソソーサマ

お粗末。贈答や接待の挨拶につかり。

オダーアゲル

大言壮語する。気焰をあげる。

オタイヤ

祭りや葬の前夜。

オタフクマメ

そらまめ。お多福の面に似ているため。

オダブツ

死ぬ。

オタンコナス ↓オタンチン

頭脳のはたらきの鈍い人を罵る。間抜け。

オチャウケ

接待の茶に添えて出す軽い食物。

オチャッピー

あどけない動作をする少女。すこしませたことを言う

子供。

オチャラカス ↓オヒヤラカス

からかう。嘲弄する。ひやかす。

オッカア

母親（子供がよぶとき）。年をとった女（一般）。亭

主が女房をよぶとき。

オッカネ

怖い。恐しい。

オックリケース

くりかえす。

オツケ ↓オミオーツケ

味噌汁。

オッコー ↓オックウ

めんどうくさい。気がすすまない。

オッコクル

送る。ものをそまつに片づける。

オッコス

追い越す。

オッコトス

落とす。

オッタテル

立てる。

オッタマゲル

びっくりする。たまげる。

オツツカウ

対等。適合する。

オツツカツツ

等しい。間際。おなじ。

オツツケ

そのうち。のちほど。おって。

オツツケル

おしつける。力で相手をおさえつける。責任を転化さ

せる。

オツツブレル

家などが崖くずれや暴風雨でつぶれる。

オツピラキ

五の数を示すに片手の指を全部ひらく。

オツペシャンコ

平べったくつぶれる。不美人。

オツポ ↓シツポ

尾。最後部。

オツポシヨル

折る。竹や木の枝、棒などの場合。

オツポラカス ↓ホツポリダス

なげやりにする。ほうりだす。

オツモリ

おしまい。しめくくり。宴会などの切りあげに言う。

オツリ

釣り銭。余る。跳ねかえってくるもの。仕返し。

オデデコシバヤ

田舎の芝居。

オテナタラ ↓オベンチャラ

ついしょう。から世辞。

オドクル

束ねる。

オドケル

ひょうきん。ふざける。お道化。

オトテー

一昨日。おくれる。出なおし。間のぬけたこと。「オトテー

ユイ」などの使い方は、相手に好意的でないとき使う。

オトナシイ

すなお。穩かで静か。

オドム

よどむ。

オトムレー

葬い。

オネードシ

同じ年令。

オネシヨ

寝小便。

オバク

麦飯。この場合麦七、米三合くらいの割合。

オハニアワネー

適していない。ちがいがあ。同意できない。

オハヤシ

廃止。中止。

オビドキイワイ

男子の着物からつけ紐がとれた祝い（五才）。

オビヒロドケ

帯が解けて、着物の前をひらいている。無作法な着物の着方。

オヒマチ

祭りの前日の準備。

オビラメ

海草。かじめの葉にちぢれのある種類。

オビバンテン

赤子を背負った上にかけるハンテン。

オブウ

背負う。湯。

オブリ

大漁のとき、氏神や鎮守に供える生魚。

オベール

覚える。学ぶ。

オベツカ

ついしょう。へつらい。心にもないお世辞。

オマサン

お前さん。あなた。

オメーキリ

決断。意のままに。

オメー口

たくさん。

オモタセ

持參。

オヤスイゴツタ

容易なこと。些細なこと。

オヤワン

大きな椀。冠婚葬祭のとき本膳につける蓋付の大きい

椀。

オヨソタンベツ

土地の面積を正確に測量しないで、目測の経験だけで割りだす。鎌倉方面に多かった。

オヨバレ

ごちそうに招かれる。招待される。

オラツチ ↓オレツチ

わたくしたち。

オラホウ ↓オラツチャーホウ

わたしの方。「オラツチャーホウ」は、わたしたちの

方で複数の意。

オレンチ ↓オレントコ

俺の家。私の家。

オロソカ

注意力を欠く。粗末。

オロ又キ ↓ウロ又キ

間びく。苗の繁殖したのをひきぬく。胎児を墮す。

オンジ

未婚の中年以上の男。一般にいつまでも結婚しない男。

オンジョ

大きいトンボ。黄の縞の入ったのは大山ヤンマ。

オンダス

追い出す。

オンドマリ ↓ドンツマリ

行きどまり。奥どまり。

オンヌク

追い抜く。

オンバ

未婚の中年以上の女。乳母。

オンベカツギ

物事の吉凶を気にかける人。

オンマケル

容器から勢いよく出して散らす。事情を隠さずにうち明ける。

オンモ

戸外（幼児語）。

「カ」

カアオンダシ

海岸の漂流物。洪水のあと、河川から流れ出て、海岸に漂着している物。根こそぎの流木。

カアク

かわく。乾しあがる。

カアツペリ

川の縁。川岸。

カアラケ

無毛症。

カイズ

黒鯛の幼魚。

カイツポー ↓ケイツポ

ほら貝。

カイツポヲフク

ほらをふく。嘘を言う。

カイド

街道から入りこんだ家。境のうち。

カイボリ ↓ケーボリ

冬になって水枯のとき、池や溜池の水を浚<sup>す</sup>って、魚をとる。

カエルマタ

海老網の目。カエルが足を広げた形の網目。

カガエビ

野ぶどう。

カガミツチヨ

とかげ。

カカリ

費用。経費。

カカル

よりかかる。世話になる。魚など網に刺さる。

ガキ

子供。

カギッコ

木の枝でつくったかき棒。木の枝のわかれめを逆にし  
て、竿の先につけて、枯枝や木の実をとるに用いる。

カクアイ

ぬかみそ漬を細かに刻んだもの。

カクナス

隠す。

カクネ

垣根。

カクネル

隠れる。見えなくなる。

カクネンボ

子供の遊び。かくれんぼ。

カクマウ

かばう。隠す。

カグラサン

巻き揚げ器。舟や石など重量のあるものを動かすに使  
う。

カケジ

かけ軸。表具。

カケツクラ ↓カケッコ

走り競べ。

カケノイ

懸魚。神仏に供える生魚で、一對をえらに藁をとおし  
て吊るようにして納める。

カケブクロ

新盆の家に親類や縁者が米を一升入れた袋に、麻、扇子、草履などを添えて届け、それがまとまると、新盆の家から寺へ納める。

カケラカス

馳ける。走る。

カケル

交配。懸ける。走る。

カサブタ

腫物の上に被さった、ただれた皮。

ガサポッコ

草むら。灌木や草が茂ったところ。

カジカミヤ

寒がる人。

カジカム

寒さで手足の指が凝縮する。小さくなる。

カシキ

炊事。

カシグ

傾く。

カセドリ

銭をもらい歩く。小正月の行事で、さいと（道祖神の祭り）の前夜、子供達が集まって、小物（おもちゃ、おり紙など）をつくり、それをもって家々を歩いて、それを渡して銭をもらう。それを集めてさいとの行事をする。扇谷、腰越方面で行なわれた。

カセル

かぶれる。アレルギー体質で、皮膚が敏感に反応をおこす。

カセロ

貸してくれ。

カタ

質物。方面。落着。解決。大船方面では地名の下にカタをつける。逗子方、大船方など。

カタアモン ↓カッテイボ

気に入らない相手に言う。対手を蔑視して呼ぶとき用いた。漁村で、もつとも多い。

カタキ

食事の回数。

カタギ

薪、炭にする堅木、雑木をいう。まじめな気質。



カタツク

解決する。散乱したものを処理する。娘が嫁に行くこと。

カタビッコ ↓カタビツチヨ

双方の釣合がとれない。

カタフネ

相棒。己の半身のように親しい仲間。「半分、カタフネカツガネーカ」というようなときは、半分を受け持たないかの意。

カタマキカゴ

買出し籠。竹のヒゴを細かく編んだ深さ直径ともに七十センチくらいの蓋付の籠、農村で町に買物に行くとき、かついで行った。

カッカア ↓力カア

女房。かみさん。

カックラワス

殴りつける。

カッコ

下駄。

カッコウツケル

体裁をつくる。

カッサラウ ↓カッパラウ

奪いとる。人の目をごまかして盗む。

ガッセーブクロ

布製の大きな袋で、口を紐で締めるようにしたもの。信玄袋など。

カッターリ ↓カッターリイ

くたびれる。疲れる。

カッチャクル

ひったくる。相手の手から奪いとる。

カッターボ

いまましい相手。対手を罵るとき用いた。

カットウ

いか釣の擬餌鉤。

ガットモネー

とんでもない。意外。

カツノキ

ぬるでの木。肌が白く、正月の「ケズリカケ」の材料につかわれる。

カッバジク

強くはじく。

カナイシ

安山岩。

カナダレイ ↓カナダライ

真鍮製の洗面器。

カナツンボ

全く耳の聞えない人。耳のわるい人。

カナボーヒキ

他人の悪口をいいふらす女。

ガナル

どなる。大声で喚く。

カプセル

魚を釣るときにコマシ餌をまく。

カブラ

木の株。伐り倒した跡にのこった根元。

カマアカケル

誘導尋問。

カマイタチ

皮膚の傷害。季節風で、鎌でえぐりとったように、脛スネのあたりに傷が生じる。

カマウ

いじめる。かかわりあいをもつ。

カマシキ

釜の底に敷くもの。藁でドーナツ型につくり、釜底が  
円の空間に入って、底を安定させ、煤が床などにつかな  
い工夫。

カミドコ

理髪店。

カメ

舟の中に板で仕切った部分に、海水を入れて、魚類を  
活かしておくところ。

カヤムジン

屋根の葺き替えをするために、仲間をつくりその費用  
や労力を相互に負担しあう仕組の無尽講。

カラ

豆腐をしぼった糟。

カライクジガネー

全く意気地がない。弱虫。

カラツキシ

全然。

カラッケツ

一文無し。銭をもっていない。

カラッポ

何も入っていない。

カワウケ

伐り倒した杉の皮を剥いで、それを束ねる作業。杉皮は建築用材になった。

ガンガラ

ブリキでつくった缶。

カンカラカン

何も無い。雲一つない上天気。

カンジユウロク

さやえんどう。

カンジヨリ

紙こより。かんぜより。紙を細くきつくよったもの。綴じるに用いた。

ガンゼネー

子供っぽい。幼い。

カンダチ

夕立。

カンノジ

ばくちの一種。寛永通宝を回転させて、倒れたとき「寛の字」にあたるところにかけて者が、かけ金を全部とる仕組み。

カンノンサマ

しらみ。

〔キ〕

キイタフウ

気が利いている。意気な服装。

キイフラ

精神障害者。精神の安定を欠いた人。

キイレイ

黄色い。

キカセル

支える。挺子チコを使うとき、その支点になるものをつくること。

ギクシャク

安定していない。円滑でない。

キケイネー

聞こえない。納得出来ない。

キゲンケイ

気むずかしい人。気持の変わりやすい人。

キゴコロ

気性。心持。

ギゴチネイ

キゴヤ

円滑でない。しっくりしない。気詰まり。

作業用の木材（丸太、棍棒、天びん、棒等や薪類）をいれておく小屋。

キサク

気易い。親しみやすい。

キザス

兆候。まえぶれ。

キサンジ

気晴し。

キシナ

来るとき。来かかったとき。

キシヤゴ

巻貝の一種でナガラメ。

キシヨク

気持。感触。

キジリ

いろりの下座。

キジルシ

精神障害者。

ギスギス

とげとげしい。

キズケイ

気づかい。心配。

キズマリ

重苦しい。憂鬱。ふざざこむ。

キソツパ

紫蘇の葉。

キタキリスズメ

着のみのまま。着換えがない。

キダス

常規を逸した行動を始める。

キタネー

汚れる。金銭にりんしょく。

キチゲイナス

朝鮮朝顔。

キチント

正しく。

キツカケ

機会。とっかかり。

キツカリ

正確。

キツタテ

屹立。急斜面。断崖。

ギッタンバッコ ↓ギッタンコバツタンコ

子供の遊び。シーソーゲーム。

ギツチャウ

ごまかす。独り占め。

キツチヨ

きりぎりす。

ギツチヨ

左利き。

ギットー

正直一方。融通がきかない。

キツネオドリ

おとなしい人を中心にいれて、まわりをとりまいた連

中が「狐だ、狐だ」とはやしていると、中心の人が狐の

ような動作をする遊び。鎌倉の東北部大船方面にあった。

キツネツキ

精神障害者を狐がついたと称して、呪術師を招いて祈

禱させ、本人の周辺に火を焚きその煙を、吸わせて、狐をおとすといった。鎌倉では各地で行われた。

キツネノヨメイリ

日がさしているのに雨が降りだす天気。

キツバラウ

伐り払う。

キドリ

何事にも気障な態度。建築の用材を、使用向に寸法を

きめる。

キナ

来い。

キナクセー

物のこげる匂い。気配。

キノヤメー

気の病。神経質。病気でもないのに病気だと信じこん

でいる人。

キバル

気前がよい。下腹に力をいれる。

キビシユ

きゆうす。つるのつかない土瓶。

キブツセー

気ずかい。けむったい気がする。晴々しない。

キマリ

約束。約定。習慣。解決。

キミ

黍きび。

キモラツブス

びっくりする。

キヨウビ

この頃。今日この頃。

キヨウビンボ

物事をなすに、器用だが大成しない。器用のために人に利用ばかりされて、損をしている人。

キョーコツ

大げさ。仰山。

キヨリブクロ

網をつくるったり、つくったりする道具をいれる袋  
(アミバリ、コマ、ハサミ等)。

キヨル

網をつくろう。

キラス

品切になること。水からとりあげたものの水分をとること。

キリヨケ

霧よけ。窓の上につけた小庇。

ギル

物をごまかす。

キレイ

嫌い。奇麗。美しい。すっかり。

キワデイ

ぎりぎりに迫る。きわどい。間際。

キンカクシ

短い白木綿の下ばき。便器。

キンカンアタマ

頭頂部の高い頭。

キンタマザール

股間に吊る逆円錐形の小さなザル。農家で夏の田の草取りの際、除草した草を入れる。草を田の中へ捨てられないので、工夫したもの。笛田、手広、梶原方面で使われた。

ギンナガシ

男のおしゃれ。女たらしの男。

キンニヨウ ↓キンノー

昨日。きのう。

ギンボウ

緑色のなかに縞のある磯魚。

ギンミ

相談。しらべる。

ギンヤンマ

オンジヨの雄。腹部に銀色の帯がある。

「ク」

クイイジ

食欲旺盛。よく食べたがる人を「クイイジがはって  
る」という。

クイガタツ

魚が釣れはじめる。

クイツコ

食べ競べ。

クイツパグレ

食べることの心配。食いはぐれ。

クイホーケー ↓クイホウデイ

食べ放題。

クエル

崩れる。

クエール

くわえる。

クケル

衣類などを縫うこと。

クゲン

気にやむ。苦心。

クサス

悪口をいう。

クサノハナ

よもぎの若葉。

クサボッコ

くさむら。荒地。

グシヨヌレ

すっかり濡れる。ぬれぬずみ。

クズ

燃料用の枯松葉。

グズ

のろま。行動がにぶい人。

クズカキ

山や森林に入って、枯松葉や枯葉を燃料用に、かき集める作業。

クズカゴ

枯葉や枯松葉を集めたものを入れる籠。紙屑カゴとは違う。

クスネル



こまかす。品物をぬきとる。

クスラ

水成岩の塊を、地中の穴に埋め、それを地形でつき堅

めた礎石。

グズル

はつきりといわずに人をこまらせる。駄々をこねる。

クセモノ

信用できない人。

クソヲクラエ

反発的に否定する返答や、感情的にものを云うとき。

クソツカクシ

ひたすらに隠す。

クソモチ

百姓が年間汲みとった糞尿の量に応じて、年の暮れに

餅米の適当量を汲みとった家に届ける。その餅米でつい

た餅をいう。

クタバル

死ぬ。

クチイ

満腹。

クチヲカケル

たのむ。就職や婚姻の世話をたのむ。

クチベラシ

養う人員を少なくする。子供を養子や奉公に出す。

クツカク

歯で食い欠く。

クツタラカス

食べものを口から垂らす。子供が鼻汁などを出してい

る。

クツチャベル

おしゃべりをする。

クデイ

くだい。おなじことを何度もくりかえす。

クネ

垣根。

クボツタマ

低いところで、水の溜るようなところ。

クマ

隅。片隅。

クム

崩れる。崖や石垣などの場合。

クメンガイイ

財産家。

クラムス

かくれて見えなくなる。見えなくなるほど速い。行方不明。

クラミ

暗いところ。海底で魚がひそんでいるようなところ。

クラム

暗くなる。海が暗くなって視界が悪くなる。急に眼前がくらくらくなって見えなくなる。立ちくらみ。

クルリ

麦打ち棒。竹竿を一部削って折り曲げたところに、杉丸太（一メートル）に軸をつけたのをはめこんで、くるくる回転するようにし、それで麦の穂をたたき、粒をおとす道具。

クレイイジ ↓クライイジ

食い意地。食欲。「クレイイジがはっている」といえば、食欲旺盛の意。

クロノツポ

島の黒い土。水をよく透す粗い土で、乾くと粉のようになる。良質でない土。

クロボク

身内に死者が出ると、穢れとして忌みきらって神前や祝いごとに出るのを避けた。

クナナ

呉れる。物をねだる場合。ください。

クナナイ

クナナの否定で呉れない。ものを与えられない。もらえない。

クノム

食物など一気に呑みくだす。

クノロ

呉れる。

〔ケ〕

ケイガラ

貝殻。

ケイツポ

ほら貝。

ケイツポヲフク

ほらふき。嘘をいう。根拠のないことを言いふらす。

ケイド ↓カイド

大通りから奥へ入りこんだ家。

ケイナ ↓ケイロ

呉れる。クンナなど一連の用い方がある。

ケイバ

馬の飼料。

ケイボリ

川をせきとめて水を干して魚をとる。

ゲイモネイ

つまらない。おもしろくない。甲斐がない。

ケイモン

買物。

ケイリシナ

帰り際。

ケイリンボウ

返り花。季節はずれに咲く花や芽。二度目に咲く花。

ケイル

蛙。

ケイロウ

帰ろう。よこせ。

ケズリカケ

正月の神棚に飾る縁起もの。カツの木の幹を長さ二十センチほどに切って一方の切り口から皮を細かに削りながら、その削った部分を反らせて捲いたもの。

ケツ

尻。

ケツカル

居る。「ケツカッタカ」は居たか。

ケツカレ

行け。

ケツシル

便秘する。

ケッタクソワリイ

縁起がわるい。相手に対して気分がよくない。

ケツツベタ

尻っぺた。

ケツパグル

蹴り上げる。蹴飛ばす。

ケツメド

尻の穴。

ケナス

悪口を言う。罵る。

ゲノゲ

下の下。

ケバ

毛。繊維。

ゲバチロ

魚でカワハギのこと。

ケブ

煙。

ケブダシ

煙突。

ケブッタガル

敬遠される。遠ざけられる。

ケブツテ

けむい。親しめない。

ケブトロ

根拠がない。はっきりしない。あいまい。

ケモネイ

気配がない。

ゲロ

汚吐物。

ゲン

験シムツ。兆候。病気など治療の効力に関してつかわれる。

ケンケン

片足跳び。石けり。

ケンタイプル

もったいをつける。威厳を示そうとする。威張る。誇

示する。

ケンツク

叱言。

ケンドン

無愛想。そっけない。

ケンドン

本箱などの扉で、上下に動かして開くもの。

ゲンナリ

失望。力を失った状態。

ケンノン

危険。あぶなっかしい。

ゲンバ

井戸水を換えたり、井戸掘りの際、水を汲み出すに使う大きく頑丈な桶。

ケンペーツク

上から押さえつけるような態度。権力を笠にした態度。

【二】

コイコイ

ばくち用語。花札を用いて二人で、さしに勝負をするばくち。

コイタゴ

肥料桶。

コウエー

硬い。恐しい。怖い。

ゴウガニエル

腹が立つ。

コウコ

漬物。

コウジブタ

麴をふせる箱。浅い長方形で三十五センチ×九十センチくらい。

コウシャ

巧者。上手な人。

コウジンボーキ

細い塵などを払うにつかう。もろこしの穂でつくった

箒。

ゴウズキ

人並はずれて好き。格別に関心を持つ。好色。

コウセキ

声。ことばつき。

ゴウニン

悪い人。業の深い人。

コウバシイ

好い香り。匂いがつよい。

コウベ

勾配。傾斜。

コーカ

後架。便所。

コキタネイ

うす汚れている。うすきたない。不潔。

コキツカア

激しく労働させる。休みなしに使う。酷使する。

コキビガイイ

生彩がある。言行に活力がある。

コキル

田代を細くする。

コク

扱く。稲や麦の穂をとる。

コゲ

ぬきとる。田畑の作物や草をとる。船を漕ぐ。

コグチ

丸太などを切断した横断面。

ゴクツブシ

徒食をする人。家計に役立たずに生活している者。

コグラケーシ

足の捻座。

コゲル

くぐる。潜る。物と物の間をぬけて通る。

コケ

言え。馬鹿にする。蔑視する。たとえば「コケにする」

などと言う。

コケイラ

このあたり。

コケオドシ

空威張り。

コケラ

鱗。

コゲラカス

焦がす。

コケル

ずり落ちる。転ぶ。細くなる。削る。

コゴマル

うずくまる。

コゴル

凝る。かたよる。煮こごり。

コサ

木の下かげ。木が繁つて陰になっているところ。

ゴザツタ

疲れて力つきた状態。亡くなった。

ゴザル

死ぬ。老朽。

コサレル

追い越される。家を移る。

コシギンチャク

いつもはなれず従いて歩く。

コシツナ

腰につける綱。地曳綱を曳くとき、綱にからませて用いる。麻縄を腰が入るほどの円につくり、そこから一メートル前後の一本の縄をのばし、その尖端に木片などをつけ、それを綱にからませて、後退りに綱を曳くとき用いたもの。

ゴシヨウラク

のんき。何事につけて苦勞にしない人。

コジヨク

小食。

コジョハン

間食。おやつ。

コジラス

悪化させる。事柄をむずかしくする。

コス ↓トオス

篩にかける。濾す。粉を篩で粗悪品をのこして良品をえらぶことや、汚水を濾過する場合にもこの言い方をする。

コスイ

ずるい。こうかつ。悪知恵がある。けちんぼ。

コスツカレー

コスイの変化で、ずるい、けちなどの意。

コセエル

つくる。こしらえる。

ゴゼンバシ

食物を箸を用いないで指で直接に口へはこぶ。

コソクル

つくろう。修繕する。失敗などをこまかすために、つくりごとをすることを「コソクリ仕事をする」とも言う。

コソッペー

さらっとしていない。こだわりがある。

ゴタク

しつこく理屈をくりかえす。理にあわないことを強く主張する。

ゴタクサ

とり乱している。ごたごたしている。

コチ

東から吹く風。春先の風。

コッキリ

限り。おしまい。

ゴッサマ ↓ゴッサン

ごちそうさま。

ゴッターケース

ごったがえす。乱雑にする。

ゴッチョーキル

手間どる。世話をやかせる。

ゴッテリ

たくさん。

コッパ

木の端片。とるに足らぬようなもの。

コッパル

なぐる。頬をなぐる。

コッピデー

酷い。

コッペー

生意気。口巧者。でしゃばり。

コテイタ

左官職人が使う、壁土や漆喰をのせる道具。

コテイラレネ

無上に好い。たまらなく良い。うれしいときの表現。



コテール

こまる。窮する。堪える。痛烈に感じる。

ゴトク

囲炉裏で火の上に鍋釜をかけるとき、それを支える鉄製円型の、三本足のついたもの。長方形のものは「テッキ」と称した。

ゴトツバナ

濃い鼻汁。子供がたらししている青い鼻汁。

コトワル

諒解を得る。辞退をする。拒む。

コナス

悪口を言う。扱う。処理する。

コニダ

山から材木を伐り出す仕事で、馬の力を使ったり、地車を使って運び出すこと。

ゴネル

悪ねだりする。ぐずぐずいう。いつまでも手前勝手を言って、対手を困らせる。

ゴノー

五官のはたらき。身体。「ゴノーがかなわない」とは

身体の自由を失った状況。

コノキリ

木槌の一種。鳶職が使う小型の長方形の槌。

コバ

場所をさす語で、隅、あるいは曲り角にあたる小さな部分。端（木などの切口）。

コハゼ

足袋を止める金具。

コビキ

木を用材につくる人。

コビリツク

密着。こげつく。しつっこくまつわる。

コブタン

こぶ。

コベリ

舷側の上辺の縁。

ゴホーベン

都合がよい。便利。

コマイ

壁の下地。壁を塗る下地として、篠竹を割いて、たて

よこに細かい目をつくり、それに土をからませる。

コマイカキ

「コマイ」をつくる職人。

ゴマスリ

おべっか。

コマッシャクレ

早熟の子供。

ゴマント

沢山。数え切れない。

コミ

ひつくるめて。ひとまとめ。

コミヤル

ごまかす。かすめる。他人のものまで自分のものとして取り込む。

ゴランマク

荒々しい態度や言葉。

荒々しい態度や言葉。

コロ

短い丸太。船や石などを動かし、進行させるとき底辺

にあてて、転がりやすくする。

コロガシヤキ

火葬。露天で死骸を焼くとき、鉄器の上にのせた死骸

を、魚を焼くように、背、腹と半分づつ転がして焼いた。

ゴロスケ

鼻ハナのこと。鳴き声に擬した名。

ゴロツタ

土のかたまり。土がごろごろしている。「ゴロツタ道」

は石や土のかたまりが、ごろごろして歩きにくい道のこと。

ゴロハチチャワン

大きい茶碗。

ゴロビキ

地曳網の一種。海辺三百メートル以内のところだけ

る地曳網。

コングラカス

混乱させる。もつれさす。

コングラカル

もつれる。

コングリケーシ

ねんざ。手や足の関節をいためる。

コンクレイ

このくらい。

ゴンズイ

口に触角があり、茶かっしょくのなかに緑の縞がある、ナマズに似た海魚。背ビレと胸ビレの中に毒のあるとげをもち、ふれると刺す。幼魚は夏、群れて岸ちかくの藻の下を泳いでいる。

コンタン

心づもり。はらのうち。計画。悪意の方に用いる場合が多い。

コンドロポー

このやろう。深い悪意をもたないで、目下のものに呼びかけたり、とっさに呼びかけたりする場合。野郎くらの意。

コンポー

棍棒。物をつかつかうときに用いた細い丸太。

コンモリダケ

円錐形にまん中が高くなっている。小盛り高い。

「サ」

サアトモスリヤ

ややともすれば。ちょっとしたことでも。

サアラバスルト

ちょっとしたことに。寄るとさわると。何かあると。

サアル

さわる。ふれる。

ザアル

ざる。

サイカチバラ

からたちの木。枝に太いトゲがあるので、鼠や屋敷の境に多く植えられた。春、芳香を放つ白い花をつけ、秋には青い実がなる。

サイギョウ

旅の渡り職人。

サガ

坂。傾斜面。

サガ

富士山から、まっすぐに吹きおろしてくる冬の突風。

漁民は怖がった。

サカサミス

水へ湯を注ぐこと。死者に湯灌をする場合に行うので、不吉とされる習慣がある。

サカナゴエ

魚を腐らせた肥料。生魚の腹わたや頭などを、樽や瓶、カメなどに入れて、蓋をして、一定期間をおいて腐らせたものを肥料につかう。肥料としては上質とされた。

サガニシ

西北の風。腰越方面で使われた。

サカヤキ

頭髪。月代。サカヤキ

サキヤマ

山樵。サキヤマ

サク

畑の畝。

サクイ

気立がやさしい。気易い。

サクバミチ

あぜみち。田や畑に入る道。

サザエツブシ

サザエをとる道具。三本のツメのついたものを組み、先がサザエを挟みこむようになってい。それを長い竿の先につけて、海中メガネをのぞきながら、サザエをとる。

サシ

相手と二人だけ。

サシコ

刺し子。木綿に糸で刺した厚着。

サシサアリ

さしつかえ。めいわく。

サス

人をおとしいれる。密告。

サズカリモン

思いがけず手に入ったもの。拾得物。

サタ

たより。あいさつ。

ザツカケネイ

気がおけない。気易い。

ザツキ

神棚に食物を供えるにつかう木製の小さな浅い皿。

サックベル

燃料の薪やくずを火に加える。

サテモ

さといも。

サナブリ

早苗振り。田植がすんだ祝い。

サネ

女の陰部。種の核。

サバアヨム

数量をごまかす。

サビイ ↓サブイ

寒い。

サボス

陽に当てる。乾す。陽に曝らす。

サラケウツチャツテオケ

放置しておけ。

サラケダス

暴露。人目にさらすようにする。

ザルソバ

酌婦。売春婦。

サワップサギ

玉あじさいの異名。沢をふさぐほど繁殖力がつよい。戦争中タバコの葉の代用にされた。

サンカチ

西北風。冬つよい風。

サンザ ↓サンザツバラ

長い時間。

サンザラ

花笠などにつける飾り。桧を細く削り、紐状にしたものに紅などの色で染め、束ねて飾りにする。

サンジャク

男の帯。兵児帯。

サンゼイ

入会。無益な金をつかう。

サンダアラ

俵の上下の口にあてる蓋。藁を円型にうすく編む。

サンダス

さし出す。

サンマタ

木の枝の別れたところを利用して、竿の先につけて、高いところに物をおし揚げたりするに使う。三本の竹を上方で結び、下を三方にひらいて、物干竿をのせる。三又。

「シ」

シアーセ

幸。

シオカグラ ↓ハマカグラ

汐神楽。浜神楽。毎年一月十一日、坂ノ下、材木座、腰越の漁師が浜辺で行う神楽。

シオテ

冬の寒い日に一時的に雪が舞うような気象。

シカバナ

葬式の供え花。銀紙を棒に巻き房状につくった飾りで四本たてる。

シキ

桶や箱などの底。

ジキシラズ

時間の観念のない人。時間にかまわず人の家を訪問する人。予約なしに食事時間にかけて訪問して、食事の饗応をうける人。

シケッテル

湿っている。湿気がのこっている。湿めっばい。

シケツポイ

天氣が湿りっぽく、荒れ模様の気配。

シコダケ

篠竹。

シゴトシ

仕事師。鳶職人。何かをたくらんで、人を誘ったり  
騙したりする人。

シコリ

疵跡。わだかまり。

シコル

癡る。筋肉が強張る。

シシマド

猪を覗く仕掛の窓。古い民家の入口の側に高い覗き窓  
をつくった。猪が突進して来ると表戸を閉ざし、そこか  
ら覗いて防いだという。鎌倉では山里の家につくられて  
いた。

シタジ

しょうゆ。

シタミ

見突き。漁夫の磯漁の一つ。

シツカリ

多く。たくさん。堅固。

ジツクイ

地杭。地面に釘や棒を突き刺して互いにそれに、他の  
釘や棒をぶつけて倒しっこするあそび。

シツケル

仕付る。田畑に作物を植える。作法を教える。

シツベゲーシ

しかえし。復讐。

シツポーキル

売上げなどから、少し銭をこまかす。

シトル

湿る。

シバヤ

芝居。

シブクレル

ふくれっ面をする。不服顔。駄々をこねる。

シホーデー

勝手気ままにする。わがままな振る舞い。

シボク

死者が出て、忌がかかっていること。

シミッタレ

けちん坊。

シメイッコ

末っ子。

シメシ

おむつ。おしめ。

ジャガタライモ

馬鈴薯。

シャガラッコエ

かすれ声。しわがれ声。

シャカンヤ

左官職人。

ジャクロ

ザクロ。

ジャクログチ

銭湯の湯の出口。

ジャジャバル

頑張る。出しゃばる。

シャチホコバル

硬くなる。緊張して肩をはる。

シャツケイ ↓ヒヤツケイ

冷たい。冷やっこい。

シャツツラ

顔面。

シャテー

弟。舍弟。

シャブル

なめる。口にくわえる。

シャベクル

おしゃべり。

ジャマツケド

除けもの。邪魔。

シャラクセー

生意気。すぎた。

ジャランボー

葬式。ドラやニョウバチを鳴らす音からの連想。

ジャンカ

あばた。水泡瘡の疵跡がのこった顔。

シユン



適期。

シヨイタ

背負板。薪や農作物を運ぶ用具。梯子状で背にあたる  
ところに藁縄などを当て、肩にかける太い紐をつける。

シヨイビク

背負籠。燃料の枯葉や農作物の細かいものを入れて、  
背負ってはこぶもの。

シヨウガラネー

仕方がない。仕様がなない。

シヨウグチ

日常の出入口。表の出入口。

シヨーヨー

常備。

シヨクサ

海草の一種で、ほんだわら。

シヨツテル

自負している。うぬぼれている。

シヨツピク

ひき連れる。強制的に連れてゆく。

シヨツペイ

塩辛い。

シヨテ

初手。一番初め。

シヨテツパナ ↓シヨテツペン

はじめに。最初。

シヨンバタ

渚。波うちぎわ。

シオンベン

約束をやぶる。契約を反古キョにする。小便。

シラ

重い物を運ぶとき、下に敷く木材。砂浜に揚げた船を  
海端まで下ろすとき、船の下に敷く栗材。

シラツパクレル

とほける。

シル

糞、小便などを排出する。

シロ

棕櫚の木。幹をおおっている皮の繊維をいった。シュ  
ロの繊維でつくった縄は、水切がよく、水につよい。ぞ  
うりばきなどもつくられる。水を濾すことにも用いられ

た。シロ縄。シロ箒など。

シロワケ

漁業でその日の収入によって、働いた人に賃金を分配する。地曳網や手繰り網で収穫高から、網元が半分ぐらゐをとり、その残りを働いた人数割で平等に分配するやり方。

シワンボウ

けちゃんぼ。

シンカシマ

知恵の足りない人。

シンキヤク

結婚式のとき嫁、賀の実家へ迎への使者に立つ人。

ジンジイバシヨリ

着物の後の裾をまくって、帯にはさむやりかた。

ジンジイバンバ

爺さん婆さん。春蘭の異名。

シンシヨカギリ

倒産。破産。

ジンスケ

嫉妬心。やきもち。

シンゾウオロシ

漁船の進水式。

シンダシボー ↓ シンバリボー

雨戸などを内側から支えて、外からはずされないようにする用心棒。つかい棒。

ジンダラーフム

地団駄ふむ。手足をばたつかせる。くやしがる。

ジンダンゴ

鯀の小さいもの。

シンダンジー

死人。

シンデイ

家産。身代。財産。

シンネコ

男女二人だけでさしむかい。

シンネリムツツリ

寡黙。感情をはっきり表現しない。

「ス」

スイフロ

木製楕円形の風呂桶。固定させないで、移動させることができる浴槽。据風呂。

ズウテイ

からだ。凶体。

スエル

味が酸っぱくなる。灸を点ずる。土台などを固定させる。

スカシツペ

微音の屁。

スカス

かすか。少し。

スカスカ

中が空洞。

スガレ

末枯れ。枯れた風景。

スカンボ

春たでの一種。

スキゲーシ

古い紙をすきかえしてつくった紙。浅草紙。

スギツカ

杉の皮。

スクモ

ごみあくた。あまり性質のよくない人。

スグル

わらのはかまをとる。すく。髪や網の手入れ。

スゲー

すごい。

スケツト

手伝い。助勢。

スケル

手伝う。加勢する。

スゲル

附ける。下駄に鼻緒をつける。継ぎ足す。

スゴム

おどし、威圧する。

ズシ

屋根うら。通りぬけのできる地。

スス

いたずらなもの。悪いいたずらをする子。煤。

スステー

鋭い。いたずらがはげしい。

スダーコンニャクダー

結論がでない。ああでもない、こうでもない。勝手気

ままをいう。

ズッコケル

ずりおちる。ゆるくなって下におちる。

スッテンテン

無一文。賭博などで負けて無一文になる。

ズツナシ

なまけもの。働くことが嫌いな人。

スッポヌケル

すっぱりとれる。重なっていた一方がとれる。

スナツパ

砂浜。

ズベコー

ズボラな男女をいう。身もちがよくない。ふしだら。

スベタ

性悪な女。女を罵る言葉。

スベッコイ

なめらか。

スマ ↓スマッコ

室内の隅。角。

ズリイ

ずるい。ゆるい。合わせ目に隙間があつて密着しない。

スリコギヤロウ

ごますり。おべんちゃらをいう人。

スル

欠損。減らす。

ズルッコケル

ゆるんで落ちる。脱落。

ズンドウ

円筒型で上下同じ太さ。

ズンボキリ

竹や木の尖端をとめるために、途中から切断した形。

〔セ〕

セイ

おかず。副食物。責任。

セイソク

催促。

セイツケル

言いつける。告げ口。

セイツタ

そう言った。そのように告げた。

セイツチ

金属、木でつくった槌。

セイフ

財布。

セイロ

蒸器。穀物や甘薯、切干などを蒸す器で、円形、方形などのものがある。

セイワケ

漁獲物を現物で配分する。地曳網や手操り網で挽子や漁夫が、「デズラ」として、賃銭の他に現物（魚）で配

分されること。

セガム

要求する。ものを欲しがり縋る。

セケンシ

情報屋。世間のことをよく知った人。何でも知ったふりをする人。

セチガル

ねだる。

セツカケル

せきたてる。急がせる。

セツキ

年の暮。気が急ぐ。あわただしい。

セツタ

そう云った。

セツチンツメ

窮地へ追いこむ。隅へおいこむ。

セツチンデイク

はんばな大工。一人前でない職人。

セツネイ

せつない。苦痛。

セド

家の裏。

セドリ

田の収穫見込。

セビル

強要する。ほしがる。

センズリ

手淫。

ゼンツナ

神輿のかざりづな。神輿の頂上から四方へ張って鈴を

つけた太いかざり綱。

センニ

前に。先に。以前。

センバ

麦や稲の穂をこく道具。かなこき、千歯抜き、ともい

う。

センミツ

ほらぶき。嘘つき。話に実のないこと。

## 【ソ】

ソウカヨウ

そうですか。話しの中でうなずく。

ソウシベイ

そうしよう。そのようにしよう。相手の話しに従う。

ソウジャネエカ

そうではないか。同意を求める。

ソエシヨウガツ

正月休みにつつけて休む日。農村では、しめり正月、

田植正月、祭り正月などと一村で申しあわせて休むこと

があり、それに便乗して、休みを延長することを、添え

正月と称した。

ソートーナモン

悪事にたけた人。腕前や度胸の達者な人。

ソケイラ

そこいら。そのあたり。

ソコル

干潮で海の底が見えるようになる。

ソソーッコ

私生児。

ソソッカシイ

粗忽。あわてる。

ソツ

無駄。抜け目。手ぬかり。

ソックリ

全部。まるまる。

ソックリケール

反りかえる。

ソバキリ

細くきったそば。現在のそばをさす。

ソバク

中年以上の女の脚の静脈が腫れること。

ソベエヨル

近寄る。側へ寄る。

ソマベントウ

仙人のたべる弁当のように、量の多い弁当。

ソラアツカウ

無責任な態度。本心を示さない。

ソラウタ

でまかせに歌う唄。

ソラツキ

うそつき。

ソラツプク

うそぶく。とぼける。

ソラツペ

嘘。

ソレツパチ

それだけ。それきし。

ゾロツペ

だらしない。だらだらしている。

ゾンゼイ

粗雑。

ソンプリ

態度。そぶり。

「夕」

タアケ

愚か。気のきかない人。

タアコト

ばからしいこと。

タアシ

たわし。

タアタ

足袋。

タイコウミナミ

南風の種類。

ダイス

セイロと釜の中間に挟む板。蒸しものをするとき、釜の沸騰した湯気がダイスにつくられた穴から、上のセイロに上昇する仕掛けになっている。

タイラミ

平らなところ。

タカミ

高い所。

タカボーキ

竹でつくった簞

タカラン手

もつとも高く手をのばしていた人に与える。あげる。

タカル

物を欲しがって迫る。寄り集る。「寄ってたかってタ

カル」などと使う。

タキツケ

燃料。

タゲル

手元にひき寄せる。

タケズツボ

竹筒。

タケル

虫や塵などを身体や衣類にとりつかせる。いやがらせ

をする。

タケンカア

竹の皮。

ダケンド

だけど。しかし。



タダ

無価値。何もなし。無報酬。

タチイタ

裁縫で布を裁断したり、へらをするに使う板。桂や朴の木などが良いとされた。

タチクラミ

立っていて目がくらむ。

タチブルマイ

出発のときに、見送りの人たちに、酒を振舞う。

タツ

舟の艫ともにつくった鳥居型。

ダツ

たつのおとし子。

タツボ

タニシ。

タツミノカゼ

東北の風。鎌倉地方でこの強い風が吹き出すと、荒れると警戒した。

タテウチワ

穀類の実からゴミ、カスなどを分類するため、篩フルイや箕

に入れた穀類を高い所から落とし、それに風を送って実以外の軽いものをふきとばす。二枚のうちわを蝶の羽のようにしたもの。

タテジ

建付。

タテメー

棟上げ祝い。

タテル

穀類を実と殻に分ける。反物を衣類にするため、寸法にあわせて裁断する。

タナバタケ

山の斜面の細長い段々畑。

タノクロ

田の畔のこと。

タノクロマメ

稲田の畔につくる大豆。味噌の原料などになった。

タペロー

食料。

ダマ

餅や餡アジのなかで、とけないで粉のままの形をのこした

もの。

ダマクラカス

だます。

タメ

肥料を溜めて置く所。

タヤーネイ

易々と。容易。

ダラ

銅貨。白銅貨など。一銭ダラ、五銭ダラなど。

タラカス

垂らす。

ダラバラゴチ

東風の一種。

タラン克蘭

怠ける。横着。とり得がない。のらりくらり。仕事に

精を出さない。

ダリイ

だるい。身体が快適でなく何をするにも、気がすすま

ない状態。

タルカギ

樽をもち上げるとき、たがにかける爪形の鍵。網の先

に爪のついた複数の金具で、爪を樽のたがや、縁にかけ

て吊り上げる。

ダルマノキ

青木の異名。秋になる赤い実が、ダルマに似ていると

ころから、鎌倉ではこの呼び方がある。

タワツコト

たわけたこと。まじめでない言動。

ダンゴムシ

わらじむし。ふれると背を丸めて、だんごのようにな

る。

ダンチ

高い低い。段差。

ダンツク

旦那を好意的でなく言う。

タント

たくさん。多い。

ダンナビヨリ

昼間晴れて、夜、雨が降るような天気模様をいう。

ダンブクロ

昔はズボンのことをいったが、のちポケットをさすよ  
うになった。

ダンベ―

だろう。

タンマ

遊びの進行中、一時停止の合図。子供の遊びで、都合  
の悪くなった者が「たんま」と声をかけて、指を丸めて  
示すと、ゲームが中断する。

ダンマリ

黙止。一切口をきかない。

## 「チ」

チエネツ

幼児の頃に出る熱病。

チカミ

近いところ。

チゲイ

ちがひ。相違。

チッセー

小さい。

チッター

少しは。

チツチエー

小さい。

チツト

ちよつと。少し。

チットラバカシ

すこしばかり。物を他人に与えるようなとき、遠慮が  
ちに用いる。

チブクレル

駄々をこねてふくれっ面をする。

チマジマ

こじんまり。小さくまとまっている。

チャツカリ

とりすましている。ずうずうしい。

チャトコ

茶と香を仏壇に備える行い。仏壇の世話。

チャラカス

対手をからかう。軽蔑した言動。

チャラツポコ

いい加減。でたらめ。信用できない言葉。

チヨウス

嘲る。侮る。

チヨウス

手水。便通。

チヨウスバ

便所。手洗所。不浄。

チヨウスバチ

手洗鉢。便所で手を洗うに使う陶器の鉢。

チヨウスバチ

便所の近くにいて、黒い蜂。

チヨウチンバナ

ほたるぶくろ。

チヨウロー

あざける。ひやかす。

チヨコザイ

生意気。でしゃばり。

チヨコマカ

ちよこちよこ。目ざわりな動作。

チヨツカイ

手を出す。手が早い。何事にも人より早く着手する。

特に喧嘩や、女の関係などに用いる。

チヨロケン

餅をつく際の小杵。三、四人が一組になって餅米を練って、半つきにする。後、大杵でつきあげる。

チヨロツケ

うっかり。

チヨロツト

ちよつとの隙。さつと。

チヨロマカス

ごまかす。目を掠める。

チリレンゲ

熱い汁などを、すくう陶器製の蓮弁状の杓子。

チンタラ

のろい。おそい。ぐずぐず。

チンチクリン

小型。小さい。

チンチン

男根。

チンバ

長短不揃い。

チンバラタテル

怒りやすい。すぐ腹をたてる。むかつ腹を立てる。

チンピ

小さい子供。こわっぱ。チンピラは未成年者の複数。

チンピ

みかんの皮を乾燥して粉にした香辛料。

チンポコ

男根。

## 〔ツ〕

ツエイ

強い。力がある。丈夫。

ツカサ

頭分。親分。最大、最上の地位。

ツカマイル

つかまえる。捕える。手で押さえる。

ツガル

交尾。

ツカンポ ↓スカンポ

いたどり。

ツギボツコ

衣類のつぎはぎ。

ツギモノ

衣類のつくろい。

ツクテ

腐葉土や牛馬の糞でつくった肥料。

ツクナム

かがむ。うずくまる。

ツクバル

死ぬ。行き倒れ。

ツケール

つかえる。障害。進行の妨げ。

ツッカウ

相当する。平等。

ツッカケル

足の指にかける。下駄や草履をはくときの動作。身体

へ身体をぶつける。

ツツケイボー

支柱。物が倒れないように支える棒。

ツツコロバス

つきころばす。手で押して対手をころばす。

ツツツポ

男の着物で、袂のない筒型の袖。

ツツトール

貫き通る。矢や錐などの深く突き刺さった状態。

ツバキ

口から吐くつば。

ツバク口

燕（つばめ）。

ツバナ

茅萱チガヤの穂。

ツビ

女の陰部。陰核。

ツブシ

気転。ゆうずう。融合。

ツベコベ

あれこれ。弁解めいたこと。

ツマシイ

節約。つつましい。

ツメダル

魚の腸や頭などを、腐らせて肥料にするため、貯えて

おく樽や瓶。

ツモリ

終り。宴会などの終り。酒の終り。予定。

ツヨ

杖。

ツルクル

吊りさげる。

ツルケイシ

さつま芋の蔓をかえす。伸びて地上に這った蔓を移動させる。

ツルム

交尾。からむ。

ツンダス

つき出す。荒々しく物を、相手にさし出す。

ツンツルテン

身丈にあわない短い着物を着た姿。着物から手足が出る。

ツンノメル

上体から前へのめる。転んで手をついた状態。

【テ】

テアーシ

手あしらい。手がえし。餅つきで、餅が臼にへばりつかないように次の杵をうち下す隙に、すばやくかえず作業。

テアイ

仲間。

テイク

大工職人。

テイク

大根。

テイシ

亭主。主人。夫。

デイジン

金持。財産家。

テイデー

大概。たいてい。

デイデー

橙（だいたい）。

デイドコ

炊事場。台所。

デイノコブ

地境に植える木。ニワトコなど。

デイモン

社寺の門前の屋敷や家。

デーギリ

全然。すっかり。まるつきり。否定の場合によく使う。

テエゲイ

たいがい。あらかし。ほどほど。

テエコ

太鼓。

テカギ

手に持つ鉤。俵を担ぐとき、俵にうちこんで、もち上げる補助具で、尖端が鋭く湾曲している。

デキモン

皮膚にできる腫物。

テグサ

テングサ。トコロテンやカンテンの原料。

テクナイ

生まれつき手の指が屈折して伸びない状態。

テクラガリ

手元が暗い。

テシオ

小皿。醤油などをいれる。

テシヨウ

証拠。あかし。犯行の現場。

テズマ

手品。

テズマシ

手先の器用な人。ごまかすことのうまい人。

テズラ

職人などの出勤数。実働賃銭。

デッカアス

出会う。道の途中で会う。

テッキ

四方に足をつけた鉄製の小台で、いろりの端におかれ、焼き物のときに用いる。

デツケー

大きい。



デッコミヒッコミ

でこぼこ。

デッポウ

でたらめ。うそ。口から出任せを言う。

テッポウザル

小さく細長い筈。そばなどを釜で茹でたとき、すくい

揚げる筈。

テッポウダマ

行ったまま帰って来ない使者。子供の使い。黒砂糖の

あめ玉。

テッポウムシ

木の幹のしんを食って穴をあける虫。怠け者で食って

生きるだけの他に何の欲もない人にとえる。

テノゲ

手拭。

デビ

葬いを出して一ヶ月目。この日には「デビのボタモチ」

と称して、親類縁者に、ぼたもちを配る習慣があった。

テフネ

手操り網や巾着網など沖で漁する網の親舟についてい

る舟で、漁獲物を運んだり、魚群を見つけたりの役をす  
る。

デホウデー ↓デホーラク

出まかせの嘘。

デボラ

うそ。

テメイブチ。

手前扶養。食費自分もち。

テメイヨー

自分の用事。

テメイラ

お前たち。

テメー

おまえ。自分。

デモシヨクニン

職場の一定しない人。その日ぐらしの人のことで、

「今日は植木やの手伝いでも」「明日は商いの手伝いで

も」「あさっては漁にでも」というように、一定した仕

事をもたない人。

テラキン

寺金。寺が持っている金銭。祠堂金をいう。

デレスケ

にやけ男。女にあまい男。でれでれした人間。

テンカラ

はじめから。頭から。

デングリケール

ひっくりかえる。

テングルマ

肩にのせて運ぶ。子供を肩に乗せる。

テンコ

砂糖の一種。中ざらめで飴色。

テンゴ

自慢癖。慢心。天狗のように鼻を高くする。

テンゴツパ

ハツ手。葉が天狗のもつウチワに似ている。

テンコモリ

飯などを中高に容器にもりあげる。

テンスケ

突然。いきなり。

テンデ

全然。ほとんど。まるつきり。

テンデン

めいめい。各自。

テンデンバラバラ

統一のない言論や行動。支離滅裂。

テンノウウタ

神輿渡御のときの練り唄。

テンノウバタケ ↓テンノウヤシキ

祭りのとき神輿が渡御の途中休憩すると指定されている土地。

デンブク

お題目の太鼓。

デンボ

尻。

デンボー

威勢がいい。伝法。勇み肌。

デンボグチ

味覚の鈍い人。

テンマ

小舟。伝馬舟。底が平らな磯まわりの船。

【ト】

トウヘンボク

変わり者。わからずや。ものわかりの悪い人。

ドウロクヒョウロク

道楽者や怠け者、腰抜けなど、ひとかどの役に立たない人たち。

トエイ

遠い。

トオシ

穀物や粉をふるうもの。ふるい。千石とおしなどがあ  
る。

ドオジャブネ

明治頃まで、大山詣りの道者（参詣人）が、江ノ島、

鎌倉間に乗船した舟。漁船を仕立てたもの。

ドオシヨウ

冬の海に来る鳥。カモメに似ているが羽がよわく、動  
作もにぶい。

ドオシンボ

網の魚をぬすむ者。

ドーズク

相手の胴を殴る。相手の胴を突く。いずれも喧嘩の場  
合。

トースミ

灯芯。油をしみこませて、点火した。

トオセンボ

通行を遮る。通行の邪魔をする。子供達の遊び。

トオツパシリ

遠くへ行く。子供達が、近所で遊ばず、地元からはな  
れたところへ、遊びに行くときなどにいった。

トオト

鳥や魚の異名。

ドオトリ

地形のとき、地ならしをする丸太の位置がずれないよ  
うに胴綱で調整をしている人。

ドオノマ

船の中央部分。

ドオノメイ

堂の前にある家や土地。

トーヤク

魚でシーラのこと。

ドーラン

肩からかけるかばん。

ドケル

退ける。片付ける。物を移動させる。除く。

トコアゲ

病気の全快。

トコバ

理髪店。

トコミセ

出張の店。店舗だけ借りて、住居は別にある。

ドザエモン

水死人。

トサカ

海草で鶏のトサカに似ている。ゆでて、三ばい酢など

トジクル

綴る。衣類の破れたところを縫いあわせたりする。

トシックイ

年増。結婚年令を過ぎた女。

トスベリ

いぼたの木につく虫の巣からとった粉。戸のすべりをよくする。

トツケーツコ

とりかえる。物々交換。

トツケーヒツケー

入れ替り。とり替え。婚礼の嫁の衣裳なおし。

ドッコイシヨ

お百度まいり。神仏への願いごとの行為。

ドッコイドッコイ

等しい。差がない。

トツツキ

端緒。いとぐち。初対面するとき、人を近づけないような態度をとる人を「トツツキのワルイ人」などと云う。

トツパナ

突端。岬のようなところ。

ドテツパラ

横っ腹。粗々しい言葉で言うときに使う。

トバ

苫。茅萱でつくった、蓆状マシコのもので、舟や網などの雨

除けに使う。

ドハ

崖や砂山などが崩れるのを防ぐために杭を打ちこんで、板を張ったもの。

トバックチ

建物や部屋の入り口。

トビックラ

跳びくらべ。とびっこ。

トビヒ

はやりの湿疹。

ドブサル

寝る。伏せる。

ドブツタ

汚水が流れこんで土のくさった田。

トモグル

仲間になる。この場合は悪い仲間に入る意がつよい。

ドモクル

どもる。

ドヤス

殴る。大声でどなりつける。叱りつける。

ドラッコ

私生児。

トレー

鈍い。感受性がよわい。

トロケル

とける。うっとりする。

トン力チ

金鎚（かなづち）。

トンチキ

まぬけ。気がきかない。とんま。

トントン

手間賃かせぎの叩き大工。

ドンブリ

職人たちが用いる腹かけにある袋。

ドンブリカンジョウ

収支の計算をしない金銭の出し入れ。

ドンブリコ

川などで、水の深いところ。

トンボゲチ

表の出入口。

「ナ」

ナオル

家の名跡をつぐ。改まる。病気がいえる。

ナガシ

水仕事の場。「イドナガシ」は井戸端。「デイドコナ

ガシ」は台所の水仕事の場。

ナガバンテン

木綿製の舟底型袖の長い袴纏。漁夫や農夫のふだん着。

ナガラメ

まき貝の一種でキシヤゴともいう。銀色の殻をもつ巻

貝で、湘南の海でとれる。貝殻は貝細工に用いられる。

ナキベン

泣き顔。

ナキンビー

泣き虫。すぐ泣く子供。

ナグリシゴト

ていねいでない仕事。ぞんざいな仕事。やっつけ仕事。

ナゲー

長い。

ナシタ

借りたものを返済した。

ナス

返済する。借りた金銭を返す。

ナセ

斜面。傾斜。返済しろ。

ナダ

海蛇。うつぼ。鰻に似た長大な魚で緑色の鮮かな斑点があり、鋭い歯をもち、磯に棲む。

ナタガマ

重量のある鎌。篠竹や灌木、藪の草などを刈るに使

た。

ナタボウチョウ

漁師の使う鉋丁。厚くて巾が広く刃渡り十五センチほ

どの鉋で鉋丁を兼ねたもの。竹や木を切ったり、また魚の料理にも用いられる。

ナツチャナイ ↓ ナツチャーイナイ

さまをなしていない。うまくいっていない。みっともない。だらしがない。

ナビク

大勢順応。

ナビル

こすりつける。

ナブラ

魚の大群。

ナベツル

半円の弧。鍋のつる（把手）のように湾曲している地勢や道路をたとえる。

ナベワリ

やぶかんぞうの花。

ナマキリ

正月の初漁で一番に舟を出す。

ナマコモチ

かき餅。ごまと青のりをいれてついた餅を、細長くな

まこ型にのすので名がついた。

ナマジツカ

なまはんか。中途半端。

ナマラ

おおよそ。「ナマラ半日待った」などと使う。

ナミノコ

合わせ貝の一種。小さな一センチ前後の貝で夏の頃渚に近い砂中に群生し、波が退くと砂の上に現れる。秋になると実のなくなった貝殻が海岸にうち寄せられる。貝殻は貝細工に利用される。

ナメカタ

賭博の一種。銅貨や穴あき銭の表裏に銭を賭けて勝負を争う。

ナメモノ

きんざんじみそ。麦麴からつくった味噌で、副食物になった。

ナライツケ

軟かい北風。

ナラス

均らす。平均にする。平らにする。

ナリヲヒソメル

静かにしている。形勢を見ている。

ナリフリカマワヌ

とり乱した姿。何ごとも気にかけない。

ナル

どなる。大きな声で叱る。

ナンザー

……などは。……達は。

ナンシタ

どうした。

【二】

ニイ

兄。子供がつかう言葉。

ニイヤカ

賑やか。

ニギニギ

にぎり飯。子供の掌を開閉するさま。

ニギリヤ

欲ばり。手にいれたものは放さない。

ニクタラガシ

煮すぎたもの。

ニゲイ

にがい。

ニゴイ

香り。匂い。

ニコロガシ

芋などの根菜類を煮つけたもの。

ニザイリヨウ

荷を運ぶ世話役。嫁入道具を運ぶときに、親戚か近所



からえらばれてついて行く人。

ニシ

西から吹く風。冬の季節風。

ニダンゴ

すいとん。

ニネイ

荷ない桶。水や肥料を運ぶ桶。

ニホンボウ

女にあまい男。妻の尻に敷かれている男。

ニワ

家の前にある広場。農作業場。

ニワシゴト

農家などの屋外でする仕事。

ニン

人柄。

ニンク

人工。職人

「又」

又カス

言う。除く。

又カル

手落ち。うっかり。濡れている。

又クテー

あたたかい。

又ケサク

まぬけ。ちえの働がない。

又シ

おまえ。古くからそこに棲んでいるもの。

又スム

他人の仕事の長所を見て覚える。

又タ

酢、味噌等の和えもの。

又リイ

ぬるい。湯加減の熱くない。敵しくない。

「ネ」

ネ

海中で磯の高い部分。岩礁。

ネ

山のふもとが、木の根のようにのびたところ。市内岡本に、下根、戸部根、谷戸根など多くの地名がある。

ネイ

姉。子供がつかう言葉。

ネイマ

苗間。

ネイリバナ

寝入ったばかり。

ネーツバリ

寝小便。

ネール

煮える。

ネカス

麴を発酵させる。立っているものを横に倒す。

ネコ

陶製の足温器。

ネコガイ

子安貝。

ネコジャラシ

えのころぐさ。

ネコババー

拾得物を着服する。

ネズミイラズ

台所や茶の間におく食器戸棚。

ネズミサシ

松柏科の植物。杉のように細かく尖った葉が密生している。

ネソ

篠竹の一種。籠を編むに用いる。

ネツイ

熱心。

ネツカラ

根本から。生来。

ネツコム

ねじこむ。抗議する。

ネブイ

ねむい。

ネブタ

ねむの木。

ネブツデー

眠い。

ネブト

腫れ物の一種。股にできて、根が太いので治りにくい

とされた。

ネボロケマナコ

ねぼけて、はっきりしない眼。

ネメル

目をつける。睨む。

ネンネ

赤んぼ。

「ノ」

ノイハイ

新仏のとき墓地に供える白木の位牌。

ノ

能力。

ノージ

持続力。

ノーテン

頭の頂。

ノーテンヤロー

熱狂しやすい人。

ノーノースル

晴々する。さっぱりする。解放感。

ノーマンコ

鰻ウナギの幼魚。

ノギ

麦の穂についている絨毛。

ノサ

新築の上棟式のときに棟に立てる飾りもの。雲型の板

に御幣、五色の布などをつけ、式のあと工事人の親方の  
もとに贈る。

ノジ

屋根の下ごしらえ。

ノシイタ

餅や練ったそば粉をうすく伸ばす板。

ノス

のばす(餅やそば)。のぼる(木や塀)。対手をなぐ

り倒す。

ノタクル

徘徊する。苦しみ七転八倒する。

ノダツ

成功する。発展する。

ノツキル

乗り切る。

ノツケカラ

最初から。もともとから。

ノツケル

乗せる。

ノツコス

乗り越す。

ノツポ

背が高い。砂の多い土。

ノデン

戸外。露天。

ノノサン

仏。お月さん。

ノベオクリ

葬式の見送り。

ノベタラ

たえまなし。

ノベツマクナシ

いつまでも、だらだらとつづく。

ノベントウ

田畑の仕事のとき、もって行く弁当。

ノボセル

熱中する。逆上。

ノリ

寸法。方則。

ノリ

共同事業など。

ノンベンクラリ

しまりが無い。だらだらとやっている。

「ハ」

ハ

大八車などの車輪の外側の金具。

ハエイトコイエバ

結論からいえば。かんたんにいえば。

ハカガイク

はかどる。

ハガチ

げじげじ。

ハカバカシクネー

病気の快復がおそい。物事の進行がおそい。

ハカマイワイ

男子七才の祝い。

ハカンバ

墓場。

バクメシ

麦飯。

バクレンオンナ

悪女。非行の多い女。

ハゲチヨロ

ところどころ禿げている。色がさめているところが多い。

ハサ

稲を干すもの。浜で網をかけて干すもの。

ハシツケ

す早い。すばしっこい。

ハシヤスメ

主食の他にそえた食物。

ハシヨツテル

積極的。ものごとに精をだす。着物の端をまくり上げる。

ハス

斜。

ハスル

うすく斜に削る。

ハタ

当人以外の人々。周辺の人々。

ハタク

叩いて塵などを払う。売れ残っている商品を売りさば

く。たたき売り。

ハタケ

顔にできる皮膚病。

ハダシタビ

地下足袋。

ハダツテ

わざわざ。特別に。

ハチス

木槿。

ハチニンコゾー

俵や簾を編む道具の部品。

ハチハレイ

祭りや葬式、婚礼など人寄せの、あと片付け。

バッチラゲッコ

うばいあい。物をとりっこする。

バテル

疲れる。

ハナ

興行や祭りの催しものに出す寄附金。

ハナ

尖端。出ばったところ。はじめ。しょっぱな。

ハナツンボ

臭寛のよわい人。

ハナドリ

牛馬のくつわをとる。

ハナメド

鼻の穴。

ハヌキ

歯医者の古い異名。

ハバ

はばのり。磯の岩につく海苔の一種で巾がひろく、風

味がよい。真冬の夜の干潮時に採集することが多い。

ハバツテイ

憚り。遠慮。

ハマセガキ

盂蘭盆の一日。鎌倉じゅうの寺院の僧侶が、由比ヶ浜

で、海難の人々の供養を営んだ。

ハヤビルメシ

早い昼飯。

ハヤブカシ

蒸籠モウロ。曲輪マツバ。松木で造った方形や円形の蒸器。

ハラキリグモ

ふくろぐも。植木の根もとに白い袋状の巣を地中深く  
つくり、そこに棲息し、人がとらえて地上にひき出すと  
自らの足で腹をきってしまふ。

ハラサンザ

満腹。腹いっぱい。

ハラノカワアヨル

おかしいこと。腹の皮をよるほど笑う。

ハラバタ ↓ハラワタ

臍物。

ハラミット

妊婦。

ハリツカ

紙や布などをはった物。破れやすいもの。脆い。

ハンカモン

向こうみずの人。はねあがりもの。喧嘩っぱやい人。

ハンギリ

浅い桶の一種。大は味噌をつくるときの桶。磯漁に使っ  
た桶舟。小さいものは径三十センチほどのものまでの総

称。

バンジョウ

大工の頭領。番匠。

バンタビ

度々。何回も。くり返し。

ハンチク

中途半端。

バンデイ

盤台。浅い丸桶。魚や料理を入れる桶。

バンピロ

巾の広いこと。

ハンマ

一人前でない。

「ヒ」

ビイタ

女の子。

ヒーナリゴエ

癩高い声。女の声。

ヒガナイチンチ

一日じゅう。一日まるまる。

ヒガラ

日数。天気。

ヒキズリ

だらしのない女。先へ先へとひき延ばす。

ヒクミ

ひくいところ。

ビケ ↓ピリッケツ

最後尾。

ヒゲーリ

一日だけで天気が変わる。

ヒゴ

竹を細かく割いて磨いたもの。細工用。



ヒコバ

わかめを浜に乾したとき、本体から落ちた端物。落穂など。

ヒザナオシ

嫁や簀などの里帰り。

ヒソッコリ

海が干潮で、磯の底が出たりしている有様。

ヒタジ ↓シタジ

醤油。

ヒダリメー

財産が傾く。着物の前の合わせ方のちがうこと。

ヒツカラゲル

からげる。束ねる。

ヒツクリケーシ

うらがえし。

ヒツケーシ

吉凶ともに着る女の着物。

ヒツコシガネー

意気地がない。頑張りがない。

ヒツサル

ひき退る。遠慮して人前に出ない。

ヒツペガス

剥がす。

ヒデ

松の瘤や根元など脂の多い部分。

ヒト力サ

ひとまわり。二倍くらい。

ヒト力タキ

一回分の食事。

ヒトコツパ

ちょっとのあいだ。少しの時間。一刻。

ヒトツキリ ↓ヒトコツパ

ひとつとき。少しのあいだ。

ヒトツコ

一重結び。縄や帯、紐など、ものを束ねたり、まいたりするときの状態を示す。フタツコなら二重、ミツコなら三重という具合。

ヒトツチヨイ

ひと背負い。沢山背負う。

ヒトツブシ

鮑をとる道具。

ヒトニコク

死亡を知らせに行くことで、必ず二人で行くことになっていた。男が二人連れ立っての訪問は忌みきらわれた。

ヒトマス

中世に山頂などに伏兵を入れるためにつくった方型の濠。五合樹、一升樹などと、大きさを分けた。鎌倉の山上にある遺跡。

ヒトミズ

人見知り。人を好き嫌いする。

ヒトヨセ

吉凶などで親類縁者が集る。

ヒトンデニ ↓ヒトリデニ

自然に。いつのまにか。

ヒナス

実らずに形骸ばかり。穀物の殻ばかり。

ヒネ

古い。発育がわるい。

ヒマツカキ

幸、不幸の他、祭りや行事などで自分の用でないこと

にかり出されること。

ヒマツツブシ

時間をもてあましている。

ヒヤートモネイ

何事もない。

ヒヤカス

からかう。嘲弄する。

ビヤク

山崩れ。崖くずれ。

ヒヤクナシ

一文なし。銭をもたない。

ヒヤメシゾーリ

藁草履。鼻緒に白紙をまいた葬式用のわらぞうり。凶人にもはかせた。

ヒヤメシツクイ

いそろう。働かず他人の家に寄食している人。自分で生活できず、他人の世話になっている者。

ヒヨーゴ

表具。かけ軸。

ヒヨーロクダマ

力のない魂のぬけたような人。ひよろひよろした人。  
ヒヨリバンジヨウ

のんびり仕事をする。せかせかしない。

ヒラッタク

わかり易い。平易。

ヒラマ

海中の砂の部分。

ヒリヨーズ

がんもどき。

ヒワンボー

けちんぼ。りんしょく。

ピンシャン

元氣。

ヒンナカ

昼間。

## 「フ」

フウライボウ

住所不定の人間。

フカシ

蒸器。

フカス

湯気をあてる。食物を蒸す。

フキツチヨ

不器用。

フキツアラシ

ふきさらし。外に出しっぱなし。

フク

うそなどを言う。

フグツ

藁でつくった籠。堆肥などを入れて運ぶ。

フケサメ

熱し易く、冷めやすい。

フケル

蒸し上がる。くさる。成熟しすぎる。

フザケッコ

ふざける。戯れる。

フシヨツツラ

不機嫌な表情の顔。

フシヨツテ

不潔っぽい。ものぐさ。不精つたい。

フツカク

うちこわす。部分を欠きとる。

フツキラポー

無愛想。

フツクラス

なぐりつける。やっつける。

フツケース

うち倒す。たおす。

フツコヌク

うち抜く。

フツコワス

うちこわす。

フツタクル ↓フンダクル

強奪。

フツチゲー

X状。交叉する。

フツツアル

座る。

フテー

ずるい。ずうずうしい。

フテネ

やけくそで寝る。機嫌がわるく寝る。

フナゲラ

舟大工の作業場。舟大工の家。

フナダマサマ

舟に祀ってある神。

フナダンス

六〇センチ四方総桐で、要所に厚い金具をつけ、漆で塗ってある。荷主の証文や船番所手形を入れたもの。五

〇石以上の荷船に積みこんだ。

ブラ ↓ブラジョウチン

竹の柄にぶらさげた提灯。

ブリツケース

病気が快方から逆に悪化する。

「へ」

フンギリ

決断。

フンゴム

ふみこむ。ぬかるみなどに足をいれる。

フンジバル

縛る。結ぶ。

フンスケル

ふみつける。

フンスプス ↓フンス

ふみつぶす。

フント

ほんと。真実。

へイ

灰。

へイ

蠅。

へイ

すでに。もはや。

ペイスケ ↓パイスケ

篠竹で編んだ籠。土などを入れて運ぶ。

へイスル

這いずる。

へイチャラ

平気、気にかけない。

へイツクバル

這いつくばる。平身低頭。身分の高い人や権威の前に

弱くなる。

へイナワ

<sup>ヘエナワ</sup> 這縄。一本の綱に何本も釣針をつけて、海底に沈めて

漁をする。

ヘイリグチ

家の入口。

ヘイル

生える。入る。

ヘーチャラ

平気。

ヘーヤ

北向の部屋。産室。納戸。

ヘガス

剥がす。

ヘギヤ

ヒノキをうすく削って屋根板にする職人。

ヘグ

板を剥がす。皮をむくこと。

ベケ

役にたたない。だめ。

ベタ

いっぱい。

ヘタラ

やたら。

ヘチャムクレ

腹立ちやすい人。

ヘツコミ

凹み。くぼんでいるところ。

ベツタラ

いちめん。

ベットー

東北の風。

ヘツピリ

放屁。

ヘツポコ ↓ヘボ

へた。

ヘドモド

とまどう。うろたえる。

ヘナチヨコ

たよりにならない。よわよわしい。

ベネカネ

紅やかね（お歯黒）をつける。女の化粧。

ベネカン

ちんどんや。八人芸。ひろめや。

ヘノカッパ

容易。なんの苦にもならない。

ヘバル ↓ヘコタレル

疲れる。根気がない。

ヘラゲウ

刃の部分に木製のヘラをつけ、それに金属の刃先をは

めた鍬。軽くして、作業を容易にした。

ベラボウ

理にあわない。反撥するときにつかう。

ヘン

変。病状が急変する。

ヘンクツ

変わり者。

ヘンゲーリ

気もちが変ること。天気が変わること。

ヘンテコリン

おかしい。異常。

## 「木」

ボウヤ

車大工。樫など堅い用材で工作する職人。

ボ

房。縄の長さで一房は二十尋。尋は約5尺。

ボ

仲間。悪い仲間の意がつよい。

ホーゲーモネー

途方もない。とんでもない。

ホーセンコ

鳳仙花。

ホーソーバアサン

疱瘡の神に供える餅。かがみ餅の中心を乳房のように

尖起させた。

ポーチヨウ

磯まわりの漁。

ホーボ

砂間の魚で、頭部が大きく、三角形。

ホキダス

食べたものを吐き出す。

ホキル

草や麦、菜などの丈が伸びる。

ボク

古い自然木の曲りくねったもの。枯れ木。喬木。

ボク

汚れを忌む期間。血ぼく、赤ぼくは、女の月経、出産の汚れ。黒ぼくは、死者の汚れ。

ボクイシ

黒っぽい溶岩。火山岩。庭石に使う。

ボケナス

相手に悪意のないこと。

ボケル

呆ける（人間）。うすぼんやりする（色彩、霞など）。

ぼんやり。

ホコダケ

萱屋根の下地に組む竹。

ボサ

藪。草が茂っているところ。

ホシ

ずぼし。飲食店の勘定の後払い。目ぼし。

ホシイ

飯を乾かしたもの。干し飯。

ホシカ

いわしを砂浜で干して肥料にしたもの。

ホゼクル ↓ホジクル

掘り出す。掘る。暴露する。

ホソッコ

細い紐。帯など。

ホタ

焚きものにする木の枝や根。

ボタ

ぼろ着物。破れたところに継ぎを当てた着物。

ボタゾウリ

藁草履。

ポックリダシ

突如として。突然。

ボッコ

無愛想。頑固。

ボッチャ



藁などの堆積したもの。

ホツツク ↓ホツツキマワル

徘徊する。うろつく。

ホツパレ

頬がはれる。病的に頬が腫れる。

ホッピキ

ばくちの一種。宝引き。数本の紐のうち、一本に当たりくじをつけ、それぞれに賭けさせて、当たったものが全部とる。

ボテイ

ぼてふり。商品を籠に入れて、天秤棒で荷って売り歩く商い。

ボナク

泣く。ボは接頭語。

ホネヲヒロウ

死後の世話をする。

ホネガラミ

救い難い病。人間の性質が悪く、すくいがない。

ホマチ

へそくり。正規でない貯え。

ホラ

うそ。

ボロットジクリ

古く破れた衣類を継いだり剣いだりする。

ボンレイ

うら盆になって、新夫婦が媒酌人のところへ、挨拶に行くこと。

【マ】

マール

毬。

マール

周辺。

マード

未だ。

マイワイ ↓ヨイワイ

前に祝う。大漁を予想して、事前に祝いの神天や手拭をくばる行事がある。

マキザツポ

薪。束ねてない薪。

マキハダ

水漏れの隙間に詰めるもの。松の皮をやわらかくして、桶や船の、板の合せ目の隙間に詰めこんで水漏れをふせぐ。

マキヤマ

雑木が芽ぶく前に、薪を伐り出す作業。

マク

散らす。お祝いするとき、餅などをまく。

マグソツタカ

磯などで海の魚を狙っている鷹。

マクラダング

死者の枕許に供えるだんご。

マクラバコ

舟の小道具（網針、糸、コテ、帆縫針など）を入れる引出しのついた枕に似た箱。

マダレル

はぐれる。当てのないこと。偶然。

マケ

血統。係累。一族。

マシャク

わりあい。道理。

マスアミ

巾着網の最小のもの。

マスドリ

年貢米などをはかるとき、枴をつかう人。

マセ

早熟。

マチヨ

まとも。ちゃんとしている。ととのっている。

マッコ

囲炉裏のわく。

マツシャ

末端。末子。

マツツカサ

まつかさ。

マツト

もう少し。

マツトウ

まとも。筋のおつた。

マネイタ

まな板。

マネキ

客招きの看板。板や布に、ひいき筋の名を記して店に掲示しておく。

マブシイ

眩しい。

マブル

守る。保護する。

マミヤ

眉毛。

マメッテ

まめまめしい。落着きがない人。

マヤ

もりあがり。海辺で嵐の三日位まえに、砂が盛り上ってくる状態になる。そういうことがあると必ず暴風雨が来る、という言い伝えがいまでも坂ノ下の漁夫のあいだで信じられている。

マルク

束ねる。

マルデ

全然。

マルマル

全部。そっくり。

マルメコマル

言いくるめられる。だまされる。

マルメル

まるく練る。

マンガ ↓マンノー

田を耕す鋏。刃が元から細かく三本或は四本に岐れている。

マンガラ

うそつき。言うことに一つの真実もなく、「センミツ」と同様な意味で使われる。

マンガク

節の改良されたもの。

マンダラ

サバに似た魚で、チアイが多い。近海の魚。

マンチヨ

女の陰部。

マンマ

ごはん。

マンマゴト

ままごと遊び。

【ミ】

ミーイレル

熱心。一生けんめい。

ミーシミネイ

熱心でない。一生けんめいにやらない。

ミガイル

実が熟す。

ミギリ

右。

ミゴ

粃をおとした稲藁の芯。

ミゴボーキ

ミゴでつくった箒。細かい粉や塵を払うに用いる。

ミズツコ

胎児。

ミズボーキ

竹や木の棒の先に、藁を二十センチくらいの長さにして束ねて箒にしたもの。櫓を漕いでいるうち、櫓杭などが乾いて加熱するので、時々この箒に海水を浸して、櫓

杭にしめりをくれる用具。

ミンコシ

味噌を濾す器。

ミソツパ

子供の虫歯。

ミタモノコジキ

他人のもっているものを、見ると欲しがる人。

ミツキ ↓シタミ

磯漁で、眼鏡で海底をのぞきながら、魚貝類をとる漁。

ミットモノネー

見苦しい。

ミツメノザシキ

結婚式後の三日目に、女の客を招くこと。

ミノクチ ↓ミナクチ

田の水のとりいれ口。

ミミダレノハナ

浜ひるがおの花。

ミモチ

女のおこない。妊娠。

ミヨ

漕。渚の水たまり。遠浅の海で潮が引いたとき、渚の

深いところに溜りができる。

ミヨーミマネ

他人のすることを、見ていて覚える。

ミヨシ

船の尖端。舳。

「ム」

ムイカラ

麦藁。

ムエンサマ

無縁仏。

ムカッパラタテル

怒る。腹をたてる。

ムキ

福引の一種。絵あわせゲームで景品がもらえる。

ムク

剥ぐ。

ムケイ

死。死んだことを「オムケイが来た」という。

ムゲ

むごい。

ムコーツパギ

向こう脛。

ムコーメー

向い合い。先方と手前の意。

ムシ

子供の疳。

ムズカシイ

難病。危篤状態。

ムツツリ

口をきかない。黙止。

ムネータ

胸板。胸部。

「メ」

メイッペー

最大限。

メー

前。以前。

メーカケ ↓メーダレ

前垂れ。

メーマシイ

いまましい。

メーヤク

めいわく。

メーンチ

毎日。

メオミタ

異常な経験をしたときなど、「ひどい目をみた」などと使う。

メガマワル

忙しい。

メグラマッテー

めまぐるしい。目の前でちらほらしてわずらわしい。  
メケエ

台所用の小さい目のあらひ筈。めかご。めかえざる。  
十二月八日のヨウカゾウに、一つ目小僧の侵入を防ぐため、家の入口に目筈を下げる古い俗信があった。

メツカチ

片目の不自由な人。

メツカル

見つかる。

メツケーモン

掘出しもの。意外な発見物。

メツパ

下臉にできているただれ。

メツパジキ

みかん草。まんじゅしゃげの若葉。

メド

穴。

メニアウ

体験。

メベリ

量が減る。

メマガルシー

目前で動く。目の前でうるさく動く。

メメズ

みみず。

メンコ

子供の遊びにつかう。厚紙を円形にして絵をつけたもの。

メンパ

べんとう箱。べんとう鉢。

メンボウ

麵棒。そば粉や餅をのばすのに使うカシの円い棒。

## 「モ」

モエー ↓モヤイ

共同。

モエツツアリ

燃えのこり。

モーサッキ

先刻。さきほど。すこし前。過去形につかわれる。

モーセン

既に。以前。もっと前。

モーロクズキン

漁夫のつかう三角頭巾。厚い布を三角形に裁ち、頭から頬までを覆うようにした頭巾。

モク

海草の一種。

モクダケ

「モク」を伐るに使う竹で、女竹のしなやかなもの。

長さ三メートルほどの竹二本で海草を挟み、それを捻りながら伐りとる。

モクタツカニ



カニの一種。はさみの根に、いちめん水あかのよう  
な藻をつけた大きな蟹。食用で美味。鬚のこい男のこと  
を言うこともある。

モグリ

海中に潜って漁をする者。あま。潜水夫。人目につか  
ないように、かくれて商いや、事を行う。

モシキ

薪。たき木類。

モジナ

むじな。

モジャー

あばた。水泡瘡の班痕のついた顔。

モジリ

袖口の細い筒袖。仕事着の短袷天。

モチグサ

よもぎ。

モチツキリ

雑炊。おじや。

モチヤゲル

持ち上げる。おだてあげる。

モッテーネー

もったいない。そまつにしない。たいせつ。

モデー

元結。髪を結うに用いた。

モノビ

祭りや、市、縁日など、皆が仕事を休む日。

モノモレー

ものもらい。目のふちがただれる。

モヤイ

共有。連帯。

モヨース

雨などの前兆が現れる。便意をもよおす。

〔ヤ〕

ヤーベ

行け。

ヤエン

野猿。粗暴な人。

ヤキモキスル

いらいらする。気をもむ。

ヤクザ

行いがよくない人。

ヤクザツキ

やくざの木。建築用材や鑑賞用の庭木にもならず、実

もならないような、雑木類。

ヤクタイモクタイ

悪態雑言。

ヤクテームネイ

つまらない。とりあげるほどのものでない。

ヤケボツクイ

焼けのこりの杭。「やけぼつくいに火がついた」とい

うのは、別れた男女が再び会い、仲をとりもどすこと。

ヤシヤシ

急ぎ足。

ヤスデ

むかでに似た、二、三センチの虫。悪臭がつよく、湿

地に棲んでいる。

ヤツカム

嫉妬。

ヤツケー

やわらかい。

ヤツケーモン

世帯を持たずに同居している家族。

ヤツコメツキ

焼き米搗き。前年にとれた粳を保存し、蒔く前に水に

浸す。種に使用した残りを、粳のまま炒ってから、白で

搗いて保存し、農繁期の間食に用いた。集団作業で主に

女の仕事。

ヤットコ

釘を抜く道具。

ヤテイボネ

財産。

ヤナ

田などの土手の斜面。

ヤナーサツテ ↓ヤノアサツテ

明々後日。

ヤナコツタ

いやなことだ。

ヤボヨ

あまりいい事でない用事。大したことでない日常の用事。

ヤマシ

山仕事をする人。山の売買をする人。

ヤマビルメシ

畑や山などで働いていて、食う弁当。

ヤミマイ ↓ヤミメ

新築の家を祝って見に行く。

ヤラズブツタクリ

一方的なやりとり。もらいっぱなし。

ヤワ

弱い。もろい。

ヤンノー

櫓の多い快速船。浮気女の異名。

〔ユ〕

ユイ

互いに労働を助け合う。

ユイヤ

湯屋。銭湯。

ユスブル

揺する。

ユバナカグラ ↓ユダチ

鎌倉地方の、神官が奉納するかぐら。釜に湯をたぎら

せて、榊につけておはらいをする。

ユモジ

女の腰巻。

ユリツケーシ

揺り返し。

ユルキ

囲炉裏。

ユンベ

昨夜。

〔三〕

ヨイッパリ

夜おそくまで起きている人。

ヨイトマケ

地形のこと。網を引くかけ声から、鎌倉方面でいわれている。

ヨイヨイ

中風患者。

ヨーゲイ

要害。要心。

ヨージオテ

夕方のおして陽気。

ヨーデー

病状。身体の調子。

ヨーバチ

魚を入れる桶。楕円形で蓋があり、蓋が容易にとれないように工夫してある。

ヨ力

よりも。比べるとき言葉。

ヨ力アネー

良くない。

ヨキ

薪を割る斧。

ヨクガ力ワク

ものを欲しがる。

ヨクセキ

よくよく。止むを得ない事情。

ヨクドシイ

欲がふかい。

ヨケーモン

必要でない人。邪魔者。いそろう。不用な品。

ヨコシマ

横長の深い竹籠で、五十センチ×二十五センチ、深さ三十センチぐらゐの大きさ。ぼてふりが商いの品を入れるもの。天秤棒の前後にもっこを取りつけ、もっこの中に「ヨコシマ」を三〜四個重ね入れてかつぐ。

ヨコズツポ

頬。ほった。

ヨソル

「ラ」

盛る。飯や汁などを容器に入れる。  
ヨッコナ

海岸にうちよせられた海草の屑。

ヨッピテ

一晩じゆう。

ヨバル

呼ぶ。「オヨバレ」は招待。

ヨラバサーラバ

寄ると触ると。集まると。

ヨンド

よくよく。よほど。

ラウ

煙管の竹の部分。

ラクチン

楽々。身体に楽をさせている状態。

ラクデー

落第。落伍。

ラクネ

昼寝や、仕事が閑で寝ている。

ラチモネー

雑作もない。たやすい。

ラッキユウ

ラッキョウ。

ラントーバ

墓場。

〔リ〕

リュウドスイ

木製の古いポンプ。竜吐水。

リンバ

木を挽き割るとき、木を寄せかける仕掛。

木挽コヒキの用語。

〔ル〕

ルイガネー

類がない。

ルーズ

だらしがない。

【レ】

レーゲツ

来月。

レーネン

来年。

レロレロ

ベロベロに酔って舌がまわらない状態。

【ロ】

ログイ ↓ロチンコ

槽がかみ合うところの突起物。

ロクデナシ

使用にたえない人間。役に立たない人。嘲笑の意が

よい。

ロクロク

ていねい。

ロツパン

談判。論判。

ロツプーキメル

腹をきめる。決断する。

ロベン

槽にとりつけてある、へこみのあるもの。「ログイ」

とかみ合せて、槽をうごかす。

「ワ」

ウェイラ

お前ら。

ワキヤーネー

雑作ない。かんたんだ。易々。

ワクタイ

悪態。悪口。

ワケーシ

若衆。

ワザット

簡単に。

ワザト

故意に。

ワサワサ

あちこちと、おちつきがない。

ワツカ ↓ワツパ

たが。輪。

ワマーシ ↓ワツパマワシ

竹の輪や針金の輪に、太い針金でつくった用具を使っ

て、地面をころがしてあそぶ。子供のあそび。

ワヤ 駄目。名折れ。不名誉。

ワルシ

わるい子。いたずらもの。

ワンクレー

ごきぶり。油むし。

ワンドー

湾をなしているところ。円曲をしている地形。



## あとがき

近代史資料収集・調査と一口に言いますが、その対象となる資料の数は、膨大なものとなるでしょう。そこで、当図書館では、昭和五十二年より、本市における特に庶民の生活に焦点を当て、関係資料の記録に努めてまいりました。

この収集・調査業務に当たってこられた専門嘱託員の木村彦三郎氏は、そのあたりの経緯について、次のように話しておられます。

「正統な鎌倉の歴史というものは、もうわかっているんですよ。ところが、鎌倉の人達がそういう大きな流れの中で、どういうふうにみんな生きてきたかとか、これっばかりの狭い所で何千人が生きて住んで、どうやって食っていたのか、というふうなことを、その鎌倉の人間の生活のことをもっと知りたいと思ったんですよ。」（かまくら図書館だより第五十一号）

このように、鎌倉の人々をこよなく愛してこられた同氏は、平成三年三月で、惜しまれながらその職を退かれました。

当館といたしましては、今後とも、同氏の精神と不断の努力を継承し、この近代史資料収集事業をさらに発展させていきたいと考えております。

平成三年六月八日

## 木村彦三郎氏 略歴

昭和五十二年より、近代史資料収集担当嘱託員として、中央図書館に勤務する。

それ以後十四年にわたり、鎌倉近代に関する資料の調査・収集を続け、平成三年三月をもって退職する。

### 調査・著作物

「鎌倉のことば」

「山之内村御用留」

「鎌倉の社寺門前」

「鎌倉の俳人」

「鎌倉近代史資料(その一)人物編」

「近代鎌倉の地名」

「鎌倉の野仏」

以上、「鎌倉近代史資料」

その他

「小長井日記」

「大街道日記」

昭和六十三年刊行

平成元年刊行

平成三年刊行

平成三年刊行予定

未刊(筆耕本)

未刊(筆耕本)

未刊(筆耕本)

未刊(筆耕本)

未刊(筆耕本)

### 鎌倉近代史資料 第三集

### 鎌倉のことば

発行日 平成元年三月三十日

第二版 平成三年七月二十三日

編著 木村彦三郎

発行 鎌倉市教育委員会

鎌倉市中央図書館

鎌倉市御成町二〇一三五

印刷 神奈川印刷株式会社